

0m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10m 1 2 3 4

279  
5  
63

279. 5-63  
1200501360755

始





ペーデン・パウエル卿著  
少年團日本聯盟譯

幼年健兒教範

ウルフツカフス・ハンドブック

少年團日本聯盟需品部發行





ベーデン・パウエル 卿

功被天下  
守之以讓

新平題



279.5-63

本書は、ペーデン・パウエル卿が、幼年健兒の  
ために、親しく著はされたる *The Wolf-Cub's*  
*Handbook* を本聯盟主事奥寺龍溪氏に囑して翻  
譯せしめたるものなり。

大正十五年十一月

少年團日本聯盟

## 序 文

若い狼のやうに、子供は、非常な食欲を持つてゐる。この本は、年とつた狼から、若い狼に與へる、食物である。

これを食べると、水々しい肉も入つてゐるし、咬まなければならない堅い骨もある。

併し、むしやぶり食ふ若い狼が、肉ばかりでなく、骨にも、しやぶり付いて、筋と一緒に、脂肉をも、食べて了ふならば、一口毎に、味もあれば、丈夫にもなることを、私は希望してゐる。

アール・ビー・ビー。

我が若い者に、正しい精神を植えるのに、努力して呉れたラドヤード・キップリングに、その模倣の出来ない『ジャングル・ブック』を、私の教範に、引證する許可を與へて呉れたことを、私は、非常に感謝する。

又、その發行所たるマクミラン會社に對して、其等の拔萃を許して呉れた親切にも感謝するものである。

### 幼年健兒隊のおきて

- 一、幼年健兒は、年長健兒に、服従します。
- 二、幼年健兒は、自分に、降参しません。

### 幼年健兒の誓約。

私は、私の最善を盡すことを誓約致します。

神と王とに、忠誠に、私の義務を盡し、幼年健兒隊のおきてを守ります。

毎日誰れかに、善行を致します。



目次

序文……………一

幼年健兒隊の掟……………三

幼年健兒の誓約……………三

第一編

第一食……………一

モイグリーの話——評議岩のまどぬ——大咆哮——ズールーの子供——遊技(シリア・カンとモイグリー)

第二食……………二

バルーとバギーラー——敬禮——タバクイの踊とシリア・カン

第三食……………二九

ペンダーローグ——幼年健兒誓約——カーの飢饉踊

第四食……………四五

幼年健兒隊の掟——教練圓作り——バルーとバギーラの踊

第五食……………六五

ブラウニー——どうして、役立つ者になるか——善行

第六食……………七九

藪踊——制服——見習敘任——組

第七食……………八八

星章——トータム・ポール——國旗及掲揚法——英國旗作成練習

第八食……………九九

觀察——追跡法——人跡——觀察散步

第九食……………一一九

ナイヤガラの碎氷事件——結索とその方法——船のり——ビクトリヤ勳章を得たヂャック・コンウエ

ル——幼年健兒の集窩

第十食 ..... 一四七

大きく、丈夫になる方——血液——保健食物——日々の便通法——新鮮なる空氣——体操——縄跳び、本積み——蛙跳び及てんぐり返し——輪廻し等——鼻の呼吸——爪とその注意——齒とその注意——足

第十一食 ..... 一六六

時の見方——奉仕——第一星章問題

第十二食 ..... 一七一

信號法——アルファベット信號

第十三食 ..... 一七二

家事——火の焚き方(屋の内外)——衣服の整理——靴の磨き方——お使の仕方——道路の清掃——練習

第十四食 ..... 一九一

編み物、組物、糊細工——貯金——模型造り——スケッチのコレクション——切抜帖——木彫——幼年健兒音楽隊——英國歌

第十五食 ..... 二〇九

幕替、樂な幕替、床の作り方、野替携帶品、野替目錄と要點——自己衛生——傷口の危険な塵——火傷湯傷の手當——眼の塵——体操——第二星章の條件——第二星章の進級

第十六食 ..... 二三七

昇進

### 第二編

#### 技能章

及どうしてその資格を得るか

第一章 技能章 ..... 二四三

第二章 信號章 ..... 二六〇

第三章 採集章 ..... 二八一

第四章 觀察章 ..... 二八七

第五章	編物章	.....	三〇二
第六章	美術章	.....	三〇五
第七章	木工章	.....	三二六
第八章	救急章	.....	三一九
第九章	家事章	.....	三三二
第十章	案内章	.....	三三〇
第十一章	水泳章	.....	三五〇
第十二章	對抗競技章	.....	三六〇
第三編			
幼年健兒訓練の目的と方法			
幼年健兒隊長に對する注意			
		.....	三〇七

# 幼年健兒教範

## 第一編

### 第一 食



モーグリーの話——評議岩のまとも——大咆哮——ズールーの子供——遊技（シア・カンとモーグリー）

昔、インドの遠い山奥で、大きい虎が、食物をあさつて、藪の中を、うろついてゐました。ふと木こりと、その家族の者が、野營してゐる處に來て、眠つてゐる人を捕へたら、たいしたことだらうと思ひました。いや／＼、ふとつた子供なら、夕飯には、もつと結構だらうと思ひました。虎は、大膽強い動物であります。大膽勇敢ではありませんでした。それですから、野原で、武器を持つた人には、手向ひようとは思ひませんでした。そこで、焚き火の近くに這つて來ました。併し、得物を、ねらつて、自分の足の置き場に、氣

を付けないので、前の方に、這つて進む時に、熱い火をふみました。  
痛さに、思はず吠えたので、野營の人をさわがし、空腹のまゝ、びつこひいて、逃げなければなりません。

一人の小さい男の子が、藪の中に逃げ込んでかかれると、そこで、大きい、鼠色の狼に遇ひました。併し、その狼は、勇敢で、親切な動物でありました。子供が、狼を恐れないのを見て、親犬が子犬にでもするやうに、そつと、口にくはへ上げて、近くの穴につれこみました。

ここで、狼の母が、その子供の世話をし、狼の子の家族と一處にして置きました。

その後間もなく、タバクイといふ豺が、シーア・カンといふ名の虎の處に来て申しました。

「虎君。僕は、その小さな子が行つた處を知つてゐる。君が、それを殺したら、何處にゐるか、知らせてやつたお禮に、それを少し、僕に食はしてくれるだらうね。岩の下の小さな穴の中に入るよ。」

豺といふやつは、動物の中でも、いやな、こそ／＼泥坊で、他の動物に、狩をさせて、殺させて置きながら、自分では、うろ／＼して、お残りをいただくやつだ。

そこで、シーア・カンは、穴の口元に行つて見ると、頭は中に入れられるが、口元が餘り小さいので、體が中を通りません。そして、中の鼠色の狼は、之を知つてゐて、物ともしませんでした。狼は、「向ふに行つて、自分の食物をあさり、他人の捕つた物を、盗まうとしてはなりません。藪の掟を破つてはいけません。どの動物も、人間を殺してはならないとあります。それは、人殺を狩り出すために、餘計な人が、その場に來るからであります。そして、これは、藪にゐる凡ての動物に、迷惑をかけます。」と申しました。

シーア・カンは、怒つて吠えました。そして、その仕打に對して、脅して、狼をいぢめようと思いました。その時に、狼の母は、突然口出しをして、お前の仕事に出かけなさい、私は子供の世話をするから。そして何時か子供が大きくなつたら、氣を付けないと、シーア・カンを殺すだらうといひました。

そこで、子供は、狼どもと一處にゐて、その家族の一人として育ちました。皆が子供をモーグリと呼び、駆けかたや、得物の捕りかたなど、藪の手業を皆教へてくれました。

かういふ風にして、子供は、強く、丈夫になりました。それから又、皆の者が、或る岩の處で

開かれる狼隊の評議會につれて行つてくれました。

若い狼として、學ぶことが澤山あつたのです。

ダブルユー・チェー・ロングのノーザン・トレールズの中に、狼の子が、どうして、狩の教訓を、その両親から學ぶか、その本で讀むことが出来ます。

第一の教訓は、敏捷、活潑になることです。それがために、バツタ取をするがままにさせて置きます。跳んで、かみついて、ひねつて、それを追ひかけて、跳びつきまします。それから、食物は何もやりませんが、ほしければ、出て行つて、自分であさらねばならぬことを教へられます。

鳥に跳びかゝるはかりごともしつて見ますが、直ぐそれでは、役に立たぬことが判ります。殺さうと思ふならば、這つて、跡をつけて、待つて居らねばなりません。うまく、その業をするところをおぼえなければ、飢えて死ぬのです。自分の食事は自分にたよるのです。

健兒にならうとする子供にも、丁度同じことです。第一には、斥候の業と、務めとをみんな、教へることが出来る老スカウトから學ばなければなりません。

又、遊技、運動をして、自分で、活潑に、丈夫にならなければなりません。又、自分で生活の

途を講じなければなりません。遊技では、その役に立ちません。成功しようと思ふ者は、どんな職務に就くとしても、自分のためになるものは、凡て學んで、氣を付けて、それをやつて行かなければなりません。自分の成功は、自分次第です。主人の世話になつたり、親にたよつたりするわけには参りません。

それですから、ほんとうの狼の子のやうになる決心をしなければなりません。自分の成功は、自分で得なさい。後になつて、スカウトになつた時は、大きくなつたら、どうしてそれをするかを學びませう。

### 評議岩と、まとも

狼隊が、藪で會合する時は、長老たる狼のアケーラは、中央の大岩石の上に立つて、全隊悉くその周りに、圓をなして坐りました。

我が幼年健兒隊もその通りです。我々は、小石か、杭で小さい圓を作るか、又は白墨で圓を描いて、岩の印をこのやうに作るのです。




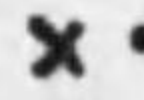
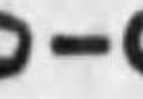
岩の圓は、直徑約三步で、中央に、旗か、トーテム・ポールを立てるのです。

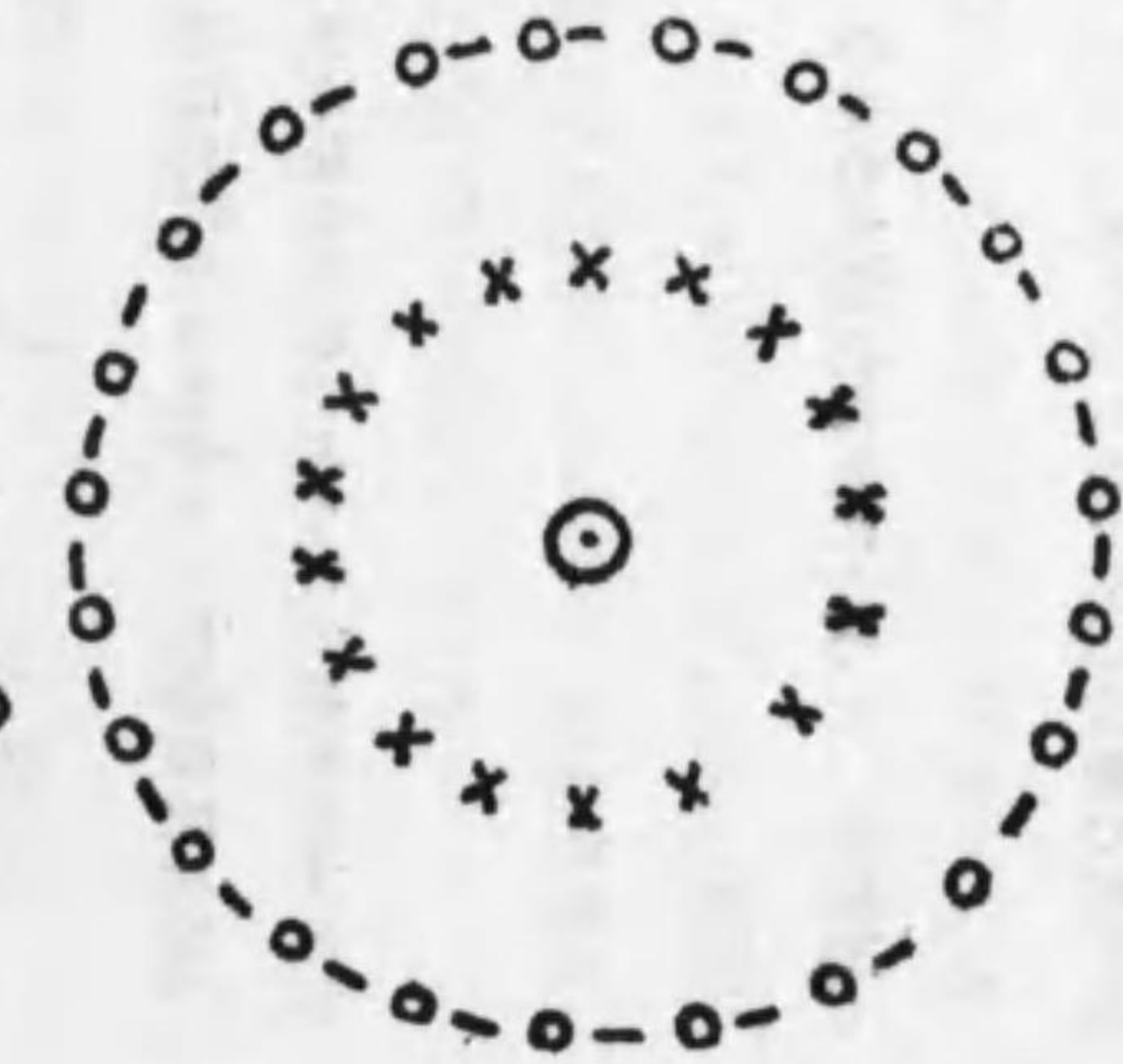
教練圓。大咆哮や、蕪踊や、集會のためには、手を握り合つて、もつと大きい圓を作るのです。

狼は皆、圓をなして、評議岩の周りに坐り、隊長たる長老の狼のアケーラが、岩に位置を取ると、皆が頭を上げ、彼を歓迎するために、吼えました。

長老のアケーラ、(即ち幼年健兒隊長又は、他の役員)が教練に来ると、若い狼のするやうに、圓をなして、しやがんで敬禮をします。そして、狼の子の吼えるまねをするのです。

このやうに、皆自分で、圓を作りなさい(早く、狼の

評議岩   
 岩の圓   
 教練圓 



子は、決して歩きません、駆けまですよ。)

それから踵の上に、しやがんで、兩手は兩足の間の地面につけ、兩膝は、このやうに、兩側に開くのです。

それから、長老の狼が、隊の處に来ると、若い狼は、頭を上げて、吼えます。併し、その吼えるのには、意味があるのです。皆が、彼を歓迎し、同時に、その命令に従ふことを示すのです。

世界中で、隊の呼び聲は、「ウイール、ズー、アワー、ベスト」であります。それだから、隊長が、圓内に、はいつて來たら、頭を上げ、皆一緒に吼え、一語毎に、長く引くのです。

「アケーラー。ウイイイル、ズー、アウウア、ベスト」『ベスト』といふ語は、鋭く、高く、短く、皆つめて叫び、同時に、跳び上つて



大咆哮



立ち、両手で、次に示す如く、頭の両側に、二本指が上方をさし、狼の二の耳に見えるやうにして、敬禮をするのです。

これは、その仕方です。

處で、それは、どういふ意味ですか。

### 両手

で、一生懸命にするといふことです。——右手だけ使ふ大抵の子供のやうに、片手ばかりではないのです。君の最善は、普通の子供の最善の二倍善くするのです。

それから、組長が、聲をはり上げて、「デイブ——デイブ——デイブ——デイブ (Do Your Best)」と叫んでゐる間、両手を上げてゐるのです。

それから、第四番目の「デイブ」の後に、各健兒は左手を左側に、早く下し、右手は、二本指を立て、敬禮のままにして置き、「ウイイル」とキャリ聲を出し、それから、「ドブ——ドブ——ドブ——ドブ」(We'll Do Our Best)とえ吼るのです。

第四の「ドブ」の後に、各健兒は、右手を早く、右側に下し「氣ヲ付ケ」の姿勢で立つて、命

令を待つのです。

今度は、再びしやがんで、長老の狼に、大咆哮が、どんなによく出来るかやつてごらんなさい。

(吼えるのを、繰り返した後に) 今度は、評議岩の周りに、圓をなして坐り、私が、幼年健兒に就いて話すのを聞きなさい。

### 藪の會合

どんな事をしてゐても、「バック——バック——バック」といふ號令を聞いたら、各健兒は、直ちに「バック」と答へて、走つて、直ぐ、隊長の周りに、教練圓を作ります。隊長が、只一度「バック」といつたら「静かに」といふことです。すると、各は、してゐるのを止めて、いふことを聞くのです。

隊長の外は、だれも「バック」といふことを許されません。組長は、組の旗で、組を集めればよいのです。

## 幼年健兒

少年健兒に加はるのに、充分大きくならない若い健兒を、幼年健兒といふのです。なぜですか。それ故に、幼年健兒は、若い狼です。スカウトは「狼」と呼ばれ、そして、若いスカウトは、「幼年健兒」と呼ばれるのです。

アメリカの遠い西部の高原では、レッド・インディアンは、スカウト國民でありました。その種族の各自は、かなりよいスカウトでありました。さうでなかつたら、誰も、土人のことは考へませんでした。

そこで、若い勇士の間に、二者いづれが、最上のスカウトになれるかといふので、非常な競争がありました。そして、最上な者が「狼」とあだ名を付けられました。「鼠色狼」又は、「黒狼」「赤狼」「やせ狼」等もありましたらう。併し「狼」は、ほんとうに善いスカウトの名譽の稱號でありました。

世界周遊をして、南アフリカに行つたならば、人々は（レッド・インディアンの代りに、野蠻の

土人であるが）全く變つてゐるが、彼等は、又善いスカウトであつて、最上のスカウトを「狼」といつてゐます。

諸君が知つてゐる通り、スカウトは、勇ましい、強い人で、務をなし遂げるためには、望んで死を冒し、知らない國でも、夜でも、晝でも、途を見付けることを知り、自分の注意をし、火を焚き、食物を料理することが出来る者であります。又、動物や、人の足跡をつけて行き、見付けられずに、見ることが出来、同時に、女や子供を助けて、親切にしてやり、何よりも、頭の命令には死んでも服従します。

南アフリカで、土人の最も立派な者は、ズールー民族で、マタベルヤ、スワーズヤ、マサイなどは、その分系であります。

是等は、どれもこれも、立派な勇士で、スカウトであります。皆子供の時分から、スカウト法を學んだからです。

この種族の子供等は、大人が出征すると、勇士等のために、寝具や、食物を運ぶために、常に戦に出ました。





左から右にウムファン(藪持ち子供)若い勇士とリングコップ老兵が見える。是等は我幼年健兒少年健兒と年長健兒に當るものです。

全身に白い物を塗られました。護身の楯一つに、動物や、敵を殺すアセガイといふ小さな槍一本渡されました。それから、「藪」の中に、追放されました。まだ白い中に、人に見付かると、人が狩りたてゝ殺すのです。そして、その白いペンキが、とれて了ふのに、一月位かゝる——洗つ



幼年健兒 少年健兒 年長健兒

幼年健兒は少年健兒を手本とし、そして少年健兒は年長健兒又は開拓者を手本とする。

彼等は、自分共で、戦をしませんでした。只、遠くから、戦争を見てゐるだけでした。そして自分等の番が来たら、どう行動するかを學びました。子供等の中で最も敏捷な、最も善良なのはその種族の將來の狼スカウトたる幼年健兒であります。

### ズールー少年の試験

併し、彼等は、スカウトと勇士になるのを許される前に、かなり骨が折れる試験に及第しなければなりませんでした。これは、彼等のしなければならぬものです。

子供が、勇士になれる年齢になると、衣裳をとられて、裸にされ

でも落ちません。

そこで、一ヶ月間は、その子供は、藪の中にかくれてゐて、出来るだけ工夫して、生きてゐなければなりません。

鹿の足跡をつけて行つて、自分の食物や、衣裳を得るために、その動物に、槍を刺すのに、充分近く這つて行かなければなりません。二本の棒を摩擦して、食物を料理する火を焚かなければなりません。——マッチは持つてゐません。それがあつても、入れるポケットが一つもありません。火を焚いても、あまり澤山煙を立てないやうに、注意しなければなりません。さうでなければ、狩りたてようと、見張りをしてゐるスカウトの目に付きます。

追跡者を逃れるためには、長い間駆けたり、木に登つたり、河を泳ぐことが出来なければなりません。又、勇気がなければなりません。そして、獅子でも、他の野獣は何でも、攻撃を加へて来ると、これに抵抗しなければなりません。

又、どの植物は、食べてもよいか、どれには毒があるか、どうして料理するかを知らなければなりません。勿論、木の皮や、粘土で、自分の料理道具を造らなければなりません。住む小屋も

自分で作つて、よくかくれてゐなければならぬのです。

何處へ行つても、跡をつけられないやうに、足跡を残さない注意をしなければなりません。眠つてゐる時に、鼻をかくと、耳のさとい敵に見付かります。そこで、口を閉ぢて、静かに、鼻で呼吸することを學ぶのです。

一ヶ月間、かういふ生活をしなければなりません。時としては、やくやうに暑いこともあり、時としては、寒いことも、雨が降ることもあります。

遂に、白く塗つた物がとれると、自分の村に歸ることが出来ます。さうすると、大歓迎を受けて、その種族の若い勇士の間に加はることが許されるのです。

それから、肩身が広く、やつて行かれ、その勇敢によつて、『リング・コップ』になれるのです。——即ち、實際立派な勇士であつて、頭に輪を著けることが許されるのです。それから進んで、多分遂には、『狼』といふ名譽の稱號が得られるのです。

併し、多くの子供等が、白く塗つてゐる期間を、首尾よく通過出来なかつたことも想像されることです。或者は、野獣に殺され、或者は、人に殺され、多くは、餓えて死んだり、凍えて死ん

だり、又溺れて死んだりしたのです。立派に通過した者は、其中の善い者ばかりでした。——そして、これで、實際よい人であることを証明したのです。かなり、骨が折れる試験です。——さうではありませんか。

### 英國のスカウト

我々の國では、數百年前には、我々のスカウトは、騎士でありました。——その義務のためには死ぬ用意をした人で、老人には、叮嚀に、婦人、子供には、恵みをし、親切にすることを誓つた人でした。

彼等は、ズールーのやうに、先づ子供の時から、その義務を學んだのです。即ち、騎士の小者として、騎士のお伴をし、鎧を着ける手傳をしたのです。これが、大きくなつて、青年になると、侍士になつて、馬に乗つたり、武器を使ふことを學び、騎士の掟を守つたのです。そして、ズールーの若い勇士のやうに、實際義務を守り、昇進の資格を得る証明を得ると、ほんとうの騎士になつたのです。

それが、數百年前のことでした。そして、澤山の子供等が、今も騎士があればよい。昔のやうに義務を守り、自分共で、よるこんで小者になつたり、侍士になりたいと希望して居ります。處で、それが、或方法で、今日存在してゐるのです。

今日、我等の騎士、スカウトとして、尊ぶ人が、我帝國の未開地に居る、山奥の住民であります。この山奥の住民、獵師、探検家、測量家、我が兵士、水兵、北極航海者、宣教師——我民族の總ての是等の人々は、遠く未開地に住み、彼等の義務であるから、危険にも、困難にも直面し、困難をも忍び、自分共の注意をし、勇氣と親切及正義の爲めに、英國人の名を、世界中に維持して居ります——是等は、今日の國民のスカウトであります。彼等は「狼」であります。

併し、彼等は、まだ子供の時分に、その仕事を學ばなかつたならば、それをなすことが、出来なかつたのであります。

### どうして、子供等は、スカウトになることを學び得るか

そこで、英帝國の子供等は、最初にボーイ・スカウトになることによつて、どうして、スカウ

トになれるかを學ぶ機会があるのです。丁度、昔、侍士が、騎士になることを學んだのと同様であります。

それで、幼年健兒たる若いスカウトも亦、昔の小者が、侍士になる準備をしたが如く、その適當な年齢に達した時には、ボーイ・スカウトになることを學ぶことが出来るのであります。

### 幼年健兒の義務

次の各章で、私は、諸君が、どうして、色々な幼年健兒の義務を習得するかを、示さうとして居ります。火を焚くことや、食物を料理することや、野營で氣樂にする仕方や、小屋の建て方や知らない地方で、通路を發見する仕方や、仲間の者に、信號の仕方や、人々に善行の仕方や、變事の場合に、援助をする仕方などであります。

金持の子供であらうと、貧乏な子供であらうと、田舎に居る者であらうと、都に居る者であらうと、他人と働いて居る者であらうと、一人でゐる者であらうと、そんな事は、問題にならないのであります。諸君が、私のいふ通りにしようとするならば、全く、容易に、是等の事を學ぶことが出来るのであります。

が出来るのであります。

### 遊技。シリア・カンとモーグリー

父狼と、母狼、小さい狼が皆一緒になつて、次々並んで、一番小さいモーグリーが、列の最後になつて、一列に並ぶ。各の者が、前の者の腰に付く。

それから、虎のシリア・カン君は、やつて来る。そしてモーグリーを捕へようとする——併し、捕へようとする、父狼が間に入つて、之を止め、狼の列の者が皆、互に取り付いてゐて、モーグリーを安全に、後に付けて置かうとする。モーグリーは、襟飾を、後に、尾のやうに上衣の下から付けて置いて、シリア・カンが、三分間以内に、この尾を取れば、虎の勝、さうでない、狼の勝である。

### 隊長への注意

ラドヤード、キャプリングの『ジャングル、ブック』は、狼の話の本で、初め二三章は、我々の題目になつ

てゐる。上述のやうに、大體を話した後に、その本を幼年健兒に讀んでやると、子供等は、一層喜んで、その意味を了解することが出来る。

## 第二 食

ペルーとバギーラ——敬禮——タバクイとシーア・カンの踊。

### 大咆哮で始める

處で、モーグリーと、藪隊とのことを、もつと話ませう。だが、動物の大將であつたか、記憶してゐますか。

アケーラは、隊の頭で、さかしい、年とつた狼でありました。そして、評議岩の處にゐて、若い狼共が、隊のおきてを守つてゐるかどうかを見てゐました。年とつた人が、どうしたら、強く、役に立つ者になるかを、子供等に教へてゐると同じやうでありました。

シーア・カンは、弱者窘めする大きな虎でありました。全身縞があり、齒と爪とがある。併し、子供の中の大抵の弱者窘めする者のやうに、一寸當つて見ると、心底から勇氣があるのではありませんでした。

それから、タバキは、卑しい、こそ／＼泥坊をする豺で、おべつかをいつては、仲好しにならうとするものでありました。併し、他人から、お残りを貰ひようとするばかりではありません。タバキのやうな子供が澤山あつて、自分共では、働きもせず、他人から、物を貰ひようと思つて、こそ／＼と、まきあげようとしてゐます。

そこで、藪にゐる動物も、そのやりかたは、頗る人間に似てゐることが、判りませう。

併し、藪の中には、私のいつた者以外に、澤山の動物が居ります。

モーグリーが、評議岩の處に、伴れられて來た時に、隊の中の一人にされたのでした。といふのは、ほんとうに、その一人となるのには、隊のおきてや、ならばしを學ばなければならなかつたのです。そこで、年とつた熊のバルーは、太つた寝坊でありましたが、かしいので、そのおきてを教へることを、いひつかりました。そして、大きい、黒い豹のベギーラは、強い、謀のある狩人でありましたが、斥候の事や、藪の作業を教へることになつて居りました。

幼年健兒が、只、隊のおきてや、約束や、秘密な暗號を知りさへすれば「見習」になります。

見習といはれるのは、獲物を取りに行つたり、藪の中で遊をしたりすると、どうすればよいか

知らないので、亂暴に駆けたり、途を迷つたり、直ぐに疲れたり、可哀相に足が痛んだりするからであります。

併し、總ての業を知ると、直ぐに、出來上つた幼年健兒になります。

そこで、幼年健兒が、健兒おきてや、秘密な暗號を習ふまでは「假入團者」と呼ばれ、それから「見習健兒」となり、幼年健兒の制服を著けることを許されます。そして「一星章」になると、出來上つた幼年健兒になるのであります。

## 敬 禮



處で、秘密な暗號とは、それで、幼年健兒は、役員、隊長に敬禮するものであります。諸君は「最敬禮」のことは、學びました。教練の時に、年とつた狼に大咆哮をする時に用ふるものであり



ます。併し、教練以外で、遇つたり、何時でも、これに話をする時は、**通常敬禮**をするのであります。

かういふ風にするのです。只右の手だけで、前指を帽に付けるのです。なぜ、二本指を立てるのですか。いや、狼の頭は、二つの耳を立て、**ゐるやうに見えます。**



それは、幼年健兒の徽章として用ゐられます。

敬禮の二本指は、狼の二つの耳であります。幼年健兒や、少年健兒に遇つたり、又は、少年健兒や、幼年健兒の胸章を着けてゐる者に遇つたら、この敬禮をするのであります。

### タバクイ踊

タバクイは、こそ／＼泥坊をやる豺であります。獨で歩き廻るのが怖いので、いつでも、仲間**の豺共の近くに居るのです。**狼のやうに見えようとしてゐますが、狼のやうに、自分で、狩をし

て、食物を得ることは、決してしないで、他人の捕つたのを盗むか、貰ひようかと思つて、こそ／＼歩きをするのです。又、それを貰つても少しもありがたいとは思はず、獲物をかきみだしたり、自分で邪魔をしたりして、うなつたり、叫んだりして、駈け廻るのです。タバクイのやうな子供が澤山ゐて、叫んで駈け廻つたり、馬鹿まねをしたり、人に邪魔をしたり、いつでも、金を貰つたり、食物を貰つたりして、何の仕事もしようとしません。離れてゐると、人を嘲つたり、泥をなげつけたりするのですが、實は、怖い臆病者です。

私は幼年健兒は、タバクイと云はれないことを希望するのです。

處で、シーア・カンが居ります。大きな獐猛な様子をした虎でありました。怖い弱者窘めです。野獸をとつたり、狩りをするのに巧者でないので、村の近處をうろついて、可哀さうに、小さい子牛や、山羊を殺したり、防禦も出来な老人でも——眠つてゐると、捕へるのです。さうでない人間をば、非常に恐がつてゐるのでした。

處で、タバクイは、シーア・カンのことを、非常に思つてゐました。彼等は、彼につきまどつてゐました。そして、彼等を窘めるのですけれども、藪の王様といつたり、この上もない立派な方

といつてゐるのでした。勿論、彼が殺したのを食べてゐると、少しは、呉れるものだから、こんなことをいふのでした。私は、子供の間に、シーア・カンがゐることを知つてゐる。——大きい、勇猛な様子をして、欲しい物は、取らうとして、小さい者を窘めるが、小さい子供が、信頼しようとするれば、實は、大の臆病者でありました。

タバクイ踊では、隊は、二組に別れる。幼年健兒の半分は——シーア・カンになる頭も付いて——タバクイになり、他の者は、狼になつて、勿論、モーグリーも一緒に付いてゐる。

タバクイとシーア・カンは、最初にやるので、その間、狼共は臥て、室の片側に待ち、豺共はシーア・カンの周に、圓を作り、シーア・カンは、中央で、得意になつて、踊り、出来るだけ威張つて歩き、そして、誰でも來て戦をして見ろといふ風に見せかける。「オレはシーア・カンの虎王だ。」と唸るやうにいふと、豺共は、「サイ・サイ」といつて、その周を歩くのである。

急に、一人のタバクイが、圓を去つて、こつそり、シーア・カンの處に行き、頗る叮嚀に、おじぎをする。シーア・カンは、窘めるまねをして、その者を蹴る。豺は、蹴るのを、ひらりとさけて、再び「ありがたう」といふやうに、平におじぎをして、自分の場に戻る。それまでは、シ

ーア・カンから見える處にゐましたが、虎の後に來ると全く變つて——場に付いてゐて、シーア・カンの方に向いてゐるのです。

彼等は、よい子供ではありませんか。けれども、ごらんなさい。狼共は動いてゐます。彼等は、タバクイにかゝつて來て、各が、こそ／＼歩いてゐる者を、一人づゝとつて行きます。騒ぎや、つかみ合が止むと、狼共は、捕虜をつれて、再び靜かにしてゐます。騒ぎの間、いさゝか神経質になつた、シーア・カンは、あたりを見廻はして、一人きりだといふことが判り、「自分は、自分で思つたよりも偉いな」と思つてゐます。「オレは、シーア・カンの虎王だ」と吼えて、藪の者共は、皆これを聞いて、さう思ふだらうと望んでゐます。藪の者共は、さう思ふかも知れませんが、モーグリーは、ふだんに、虎は臆病者だといふことを知つてゐます。今度は、モーグリーは、室に出て來て、そつと、片手を伸ばし、目と目で、虎を見てゐます。シーア・カンは、人間の方を見る事が出来ません。恐いので、虎王だといつてゐますが、段々モーグリーの足もとに、平伏して了ひます。

踊は終つて、全隊が駈けて、教練圓を作り、次の番組に進みます。



面倒な踊と思はれませう。併しやつて見ると、よく行つて、利巧な子供は、ほんとうらしく、面白くやる事が出来ます。又、全く遊にして、やりもしないで、何でもなくすることもありません。善く行くのも、悪く行くのも全く健兒次第です。うろ／＼したり、いちめたりすることを好まないことを見せなければなりません。又しねて考へてゐてはなりません。

### 遊技、棒倒し

跳び越えることも出来るが、直ぐ倒れるやうに、二呎許り長い棒を立てる。フットボールを置いてよい。子供等は、その周に圓形を作り、手に手を取り、其中の誰かゞ出て行つて、倒さうとすると、他の者が、一生懸命に引つ張るのです。さうやつてゐる間に、ひよつこり誰かゞ出て行くと、遂に勝利者になるのである。

## 第 三 食

バンダーローグ——幼年健兒誓約——カーの飢餓踊。

### バンダーローグ

すつと前のこと、私が初めて印度に出かけた時に、そこに居つた、私の兄は、印度の紳士に挨拶する正しい作法を教へてくれました。「チューブ、ウ、バンダー、ケ、ブッチャ、ヂヤオ」といふのだとのことでした。それは「オ早よう」といふことです。

私が、印度の紳士に、さういふと、それが氣に入らんといふことが判りました。そこで、どういふことかと、よくきいて見ると「オ早よう」といふ意味は少しもなくて、「閉めてしまひ、猿の子め、出て行け」といつてゐたのです。

英國では、子供のことを「若い猿」といつてもよいのですが、大層小さいといふことです。併し、印度で、人のことを「猿」といふと、非常な侮辱を加へたことになるのです。

### 猿とは悪意になるな

誰かど、都合よく「ジャングル・ブック」で、ラドヤード・キップリングの話を読んで知つてゐます。その中の一に、モーグリーが、猿のバンダローグと危いことに遇つた話があります。モーグリーは、狼に育てられた子供で、その隊の一人となり、藪にゐる動物とも皆大層仲よしになつたのです。

或時、熊のバルーや、豹のパギーラに、猿のバンダローグは、大層元気で、快活だから、好きだといつたのでした。

併し、バルーは、それは間違つてゐる。パンちゃんだちとは、何もするものではないと、いつてくれたのでした。彼等は、狼のやうなおきてもないし、人から立ち聞きしたことだけを喋つて、自分共では、大層滑稽で利巧だと思つてゐるが、實は、何も知らない馬鹿です。しようとすることは、大變、大口をきくが、少しも何もしたことはなし、仕事はせずに、喋つて、話をし、根性が悪くて、汚いものです。

藪の中にある者は、誰も、相手にする者がありません。彼等は、臆病であつて、木の中に逃げ込み、傷付いた動物に、木の實や、棒ぎれを投げつけます。彼等は、何事でも覚えてゐることが出来ません。何時でも、自分共に立派なおきてを作るのですが、何時でも、それを忘れてしまひます。

私は、バンダローグの仲間になつた方がよいと思ふ子供があると思ふことが、時々あります。——喋つたり、話をしたりすることが多くて、行ふことが甚だしく、汚くて、だらしがなく、臆病で、怨をいだき、幼年健兒のやうな、おきても守らず、紀律もないのです。

### 猿がモーグリーを盗んだこと

或日、バンダローグは、モーグリーを捕へました。枝や蔓で、自分で、小さな家を建ててゐるのを、木の間から見て居つたのです。そして、捕へて、自分共の家を作ることを、教つたら、すてきな事だらうと思つたのでした。

そこで、或日、彼が眠つてゐる時に、彼等は、そつと忍んで行つて、彼を捕へました。一番強

い者が二人で、兩腕を握り、彼を伴れて、木の梢に、つき上り、それから、二人の間に、彼をひつたくつて、何哩も、何哩も、木から木に、跳んで、お友達のゐない處に伴れて行つたのです。時々、枝や葉の間をひきづられて行く時に、枝の間から、遠く下の方に、地面が、ちら／＼と見えしました。時としては、木と木とが、遠く離れてゐる處を跳ぶ時は、ゆらく／＼してゐる枝に、とびつくともありません。

さうすると、左右、前後に、体をふつて、咳をしたり、叫んだりし、それから、急にとびあがつて、次の木の下枝に、ぶらさがるのでした。

かくの如く、とんだり、はねたり、叫んだり、ないたりして、バンダーローグの全体が、梢の通路を通つて、モーグリーを、さらつて行つたのでした。

### モーグリー信號をなす

モーグリーは、その間に、他の動物に信號して、助を求めました。高く空に飛んでゐた、鳶のランが、この事件を見て、猿共が、モーグリーを伴れて行つた處をつきとめて、バルーやバギー

ラに告げました。

二人の者が、一生懸命になつて、森を通つて、猿が伴れて行つた方向に行かうとしましたが、バルーは年寄で遅いので、バンダーローグに追付くことが出来ませんでした。

そこで、彼等は、大蛇のカーの處にまゐりました。蛇は、根性のよい、遅い年寄でしたが、食事には、かつれて居りましたので、直ぐになつとくして、バンダーローグを狩り出すのに一緒になりました。バギーラは、猿共は「足のない黄みゝず」だと、輕蔑してゐたことを告げました。乍とつたカーは、容易には怒りませんでした。この無禮には、非常に怒つて、バルーが「お前が来て猿を捕へる手傳をしてくれないか」といつた時に「私を「黄魚」などいつた以上は、やつ付けてやりますとも、魚などとはとんでもない。」といひました。

「それよりは、ひどいぞ。虫——虫——足のない黄みゝずだと、お前のことをいつてゐるんだ」とバギーラがいひました。

カーは、今度は、非常に怒つて、バルーや、バギーラと一緒に、猿が住んで、人まねをして遊んでゐる古い廢れた町に赴きました。

バギーラは、敏捷なので、他の二人の者の先に立つて、猿共が、モーグリーの周に集つてゐるのを見て、突進して、大胆に攻撃を加へました。

併し、何千といふ猿がゐるので、皆で、一度にとび付いて、直ぐに彼を倒してしまひましたので深い水溜の中に逃げましたが、その時に、バルーがやつて来て、又彼等に組みつきました。

その時に、花々しい戦がありました。併し、大丈夫、モーグリーを逃がさないやうにする爲めに、猿共は、小さな東屋の屋根の上に伴れて行つて、穴から下に落ちて、そこから逃げられないやうにしました。處が、毒蛇が一杯ゐるので、モーグリーは、シツといふ蛇の暗號をしました。さうすると、彼等は、仲よしになつて、害をしませんでした。

### カーの助け

バギーラとバルーとは、苦戦をして、いさゝか不利になりました。その時に、年とつたカーが、その場に出て来て、全身の力を集めて、猿の群衆に向ひました。そして、頭を突きさして、左右に押し倒し、その上に、シツといつて、彼等を感じたので、猿共は皆蛇には自分共は好物だと

いふことを知つて、恐を抱き、逃げ出してしまひました。

その時に、忠實な動物が三匹で、モーグリーを獄舎からとり出しにやつて来たので、カーはありつただけの力を出し、自分の頭で、壁に穴をあけて、首尾よく、モーグリーを逃がすことが出来ました。

それから、カーは、奇妙なうねりくねりをやつて、野原に出て行き、あたりの木に群つてゐる猿共にシツといつて、これから、飢餓跡をやるのだといひました。そして、カーが、うねりくねりをやつてゐる時に、猿共は見てゐる外はなく、遂にじつとしてゐることは出来ませんでした。そして、カーが、こゝへ来いといふと、彼等は段々そばにやつて来たので、今まで欲しいと思つてゐたものを捕へることが出来、体に捲きつけて、一匹一匹呑んでしまつたので、たらふく、こ馳走をいただくことが出来たのです。

これで、モーグリーが、バンダローグの難に會つた話の終りであります。

### 誓約

私は、どの子供だつて、バンダローグの仲間に入らうとする者があらうとは思ひません。する仕事もなく、遊ぶものもなく、守るおきてもなく、ぶら／＼してゐる馬鹿な子供のことだから。幼年健兒は、そのやうな者ではありません。——隊に對して、なすべき義務があるのです。——自分共でも充分樂しむことができます。——定つた規則に従つて遊ぶ遊技があり、實際ためになる仕事があるので、確にバンダローグ以上のことがあるのです。

少年健兒のやうに、幼年健兒になるのには、誓約をしなければなりません。かういふのです。

### 私は全力を盡すことを誓約します

神と王とに對して忠誠であつて、私の義務を盡すこと及幼年健兒隊のおきてを守ることを守ること。

そして、毎日誰かに善行をすること。

### 一、忠 誠

人が、一事をすると約束したら、後になつて、これをするのを忘つたり、忘れてたりすると、

非常な耻だといふことであります。他の言葉でいふと、幼年健兒が、一事をすると約束したら、それをすることが、全く確だといふことです。

一、神に對して。忠誠といふことは、決して神を忘れず、何をすることも、神を思ふことでもあります。若し、神を忘れないならば、決して、悪い事は致しません。若し、何か悪い事をしようとする時に、神を思うと、それをすることを止めるものです。

食事の前に神を拜んだり、食事の後に、神に感謝することは教へられて居りませう。それから、食事であらうと、面白い遊技であらうと、楽しく一日を暮らしても、何かよい事があつた後には、同様なことをなすべき筈だと私は思ふのであります。神は、愉快なことをさして下さいました。それですから、そのことを感謝すべき筈です。恰度、人から好きな物を貰つたら、お禮をいふのと同じことでもあります。

二、王に對して。隊に入つてゐる狼は、皆頭狼に服従することを、私は話しました。我々國民の間に於いても、さうであります。英國國民は、非常に大きい隊であります、國王陛下といふ一人の頭があります。彼等は陛下を尊敬し、陛下に服従してゐる間は、その事業は、狼隊の狩のや

うに、又、フットボールの競技で、皆主將に従つてゐるやうに、成功するのであります。

若し、各の者が、自分勝手に、競技を仕出したら、規則といふものもなく、成功も得られないのであります。若し、我々が「競技をして」王様の指示を守るならば、我々の國は、何時でも、成功するのであります。

同様に、幼年健兒としては、その隊なり、組なりの指導者に従はなければなりません。

三、おきてを守る。競技には、規則があります。そこで、競技を正しくするには、規則を守るのです。是等は、その規則であり、幼年健兒競技のおきてであります。それが、たつた二つありますから、何でもなく、覚えられます。——私は、今に話ませう。

## 二、善行

處で、第二の約束たる毎日誰かに善行をすることについて話します。

少年健兒や幼年健兒には、自分共を幸福にさせる、專賣特許の仕事があるのです。それを、どうすると思ひますか。

呷け廻つて、幼年健兒の遊技をすることですか。野營に出かけることですか。火を焚いて、自分の食物を料理することですか。動物を追跡して、その通路を知ることですか。

さうです。皆こんな事をして、楽しんで居りますが、それよりも、まだよいことがあるのです。非常に簡単であります。他人を幸福にさせることをして楽しんでゐるのです。

即ち、毎日、人に親切をすることです。誰でもかまひません。(自分共でないかぎりは)——友人でも、知らない人でも、男でも、女でも、子供でもよいのです。昔の騎士のやうに、婦人、子供に親切にするのです。

そして、その親切又は「善行」は、偉い事をするには及ばなのです。

自分の内で、何か、少し許り家の用事をするのに、お母さんや、召使に手傳をするやうな、やさしい行をすることは、大概機會があります。又、内を出て居つても、年とつた婦人の荷物を運んでやつたり、小さな子供を、安全に往來を通してやつたり、するやうなことが出来ます。

併し、どんな事をして、それが爲めに、お禮を貰つてはなりません。若し、それがために、金を貰うと、善行ではありません。只、報酬を得る仕事に過ぎないのであります。

若し、人が謝禮を出したら、少年健兒がするやうにして、その人にありがたうございますが、幼年健兒ですから、義務でするのに對して、御禮をいただかないことになつて居ります。といふべきです。

幼年健兒の目は、はしつこいのです。幼年健兒が、敬禮をしてゐる繪に、襟飾に小さいものを見ましたか。二つの結び目が見えるでせう。下のは、幼年健兒が、その日、何か善行をするのを思ひ付かせるために、襟飾を結びてゐるのです。善行をすると、結び目を解くのです。

### 健兒 笑ひ

それから、もう一つある。健兒のはしつこい目があるなら、氣が付きませう。それは、健兒の繪には、どれにもあることで、笑つてゐることです。

處で、ほんとうの狼を見たら、又、駈け廻はつてゐる犬でも、口に大きな笑を含んでゐます。それですから、幼年健兒も亦、常に笑つて居るべき筈であります。笑ひようと思はぬ時でさへも、時としては、一層泣きたいと思つても、次のことを心に留めることです。

### 健兒は決して泣かない

實際、健兒は、常に笑つてゐます。こまつた事があつても、痛い事があつても、面倒なことがあつても、危険な事があつても。

### 常に笑つて我慢する

それは、我が兵士や水兵は、大戦中にしたことです。確に健兒も、それが出来ます。餘り前のことではないが、第十八ブリストル隊の幼年健兒に屬するフランス・パーマーといふ、大層小さい子供が、自動車に突き倒されて、左脚が二つに折れて、片方の顔が、ひどい裂傷を負ひました。

従つて、その子供が、非常に苦しんでゐましたが、醫者や看護婦の驚いたことには、決して泣きもせず、痛いともいはんことでした。一人の醫師が、どうして、そんなにきついのかと問うと、次のやうに答へました。

「私は、幼年健兒です。それですから泣いてはなりません。」

フランダースの戦場で、一人の兵士が、倒れてゐるので看護手がやつて来て、英國野戦病院に伴れて行きました。軍醫が来て、負傷した所を見ると、非常に苦しんでゐるやうに、唸つて、泣いて、内部に負傷したのだといひました。併し、軍醫は、暫く見てからいひました。「煙草がのめると思ふかね。」その兵が唸つて、「イエ、イエ、それどころではありません。」「それでは、お前は、英國兵ではあるまい。私は、これまで、どんなに負傷してゐても、唸つたり、泣いたりする者を聞いたことがないし、煙草がいやだといつた者も見ることがない。——起き上れ、お前は、嘘をいつてゐるんだ。お前は獨探だな」と軍醫がいひました。さうであつたのでした。

### 蛇のカーの飢餓踊

指導者は、カーの頭になり、他の全隊が尾になつて、その後につき、各が前の健兒にとり付き、前の者と歩調を合せて、出来るだけ徐々に動き、頭の行く通りに、ついて行くのです。

頭は、靜に、8字に跡をつけ、段々小さくなつて、尾を圓形に巻いて了ふ。それから、少年健

兒が「螺旋」といふ形に、ほどけるのである。

各幼年健兒は、全行動の間、シツといつて、そつと爪先で歩いて、全隊で蛇が草の間を、がさ／＼音を立てるやうに時々、蛇が仲間を呼ぶやうに、高くシツと音を立てるのである。

カーが、かういふ風に、巻いたり、解けたりしてゐる時に、指導者は、「バンダーローグ」といふと、直ぐに、蛇が解散して、幼年健兒が、各自分勝手の方向に駆けて猿のまねをするのである。

一人は、急用でもあるやうに、或方面に駆けて行き、急に止まつて、坐つて、空の方を見る。他の者は、四つ這になつて、目的もなく、ぐる／＼廻つて、跡をする。他の者は、自分の尾をとらうとする。他の者は、木に登るまねをして、その中に坐つて、引つかくまねをする。一人は、八字なりに駆ける。他の者は、四つ這になつて、假想の敵に向つて行き、急に止つて、星の方を眺める。他の者は、自分の尾を追つかけて、二三步歩いては、又その尾をとらうとする。他の者は、跳んで、假想の藪をとり、これを見ては、また跳び出す。他の者は、とんぼ返りをして、坐つて、體をかく。他の者は、重要用件でもあるやうに、數歩歩いて急いで行き、止まつて、何の用件か忘れたやうに、頭を搔き、急に、新しい方向に行き、再び同様なことをする。



實際、猿のするやうなことは、何でも馬鹿まねをする——併し他の者がするやうに、面白がるのではない。始終いそがしくしてゐて、つき／＼色々な事をするのである。その間猿の泣き聲を出してゐる。皆が、あてどもない馬鹿まねをして、騒いで、同時に皆が「グー、グー、ヘー、ハー、グー」と猿の泣き聲を立てる。

突然、指導者が「カー」といふと、猿共は、ちぢみ上り、怖ろしい敵が、何をするかを、よく知つてゐるからである。

カーの頭になつてゐる健兒は、腕を擴げ、手を握り、頭を上げて、靜に、體をあちこちに振る。一度シツといふと、猿が皆、しぶ／＼に、一步進み出る。一人に指さしすると、兩脚の間に、這ひ出して、吞まれて了ふ。大概、十二人位の猿が、一人／＼、かういふ風に行つて、カーの體を作り、他の者は、後に廻つて行き、尾の場處につき、そして、蛇は御馳走になつたので、寢て眠つて了ふ。それから、指導者が「健兒咆哮」といふと、各が跳び上つて、教練團を作り、平常の通りに、吠えるのである。

#### 第 四 食

幼年健兒隊の掟——教練團作り——バルーとベギーラの踊

#### 狼は自分の仕事を學ぶ

チャック・ロンドンの話した、ホワイト・フアングといふ本を読んだことがありますか。

非常によい本で、若い狼の生活を書いて居ります。小さな狼の子のやうに、母のゐる穴を、よろ／＼と出かけて物を習ひ始めました。

リスが、木の根の處を廻つて駈けて來て、突然狼に遇つて、非常に驚き、狼は小さくなつて、唸りました。併し、リスは、同様に恐れたので、狼のとどかない木の上にかげ上りました。その時に、ライテウを捕へようとしたましたが、鼻を突かれて、びつくりして去つてしまひました。

後になつて、母は、まち伏せして、靜に、我慢して、あとをつけて行き、それから、電光石火

のやうに、かみつくことを教へました。ヤマアラシをとることは、狼の子には、よい教訓でありました。

ヤマアラシは、直ぐ驚いて、ハリネズミのやうに、四方八方に針を立てて、圓くなつてしまひます。そして、尾を急に動かして、攻撃を加へる狼でも、他の動物でもあると、その鋭い針を、

顔や、口にさすことが出来るのです。

かういふ風にして、傷を受けた古い狼は、再び、かういふ目に遇ふことがありません。動かずに待ち伏せして居り、——殆んど息もつかずに、——一時間でも、さうすると、ヤマアラシは、人がゐないと思つて、解け出し、それも、静に／＼、氣をつけて、さうするといふことを知つて居ります。

さうすると、狼は、見て居つて、全く解けてしまふまで待つて居ります。その瞬間に、攻撃を加へて、ヤマアラシ



ヤマアラシを持つことは狼の子にはよい教訓であります。

が防禦するために身を卷く暇もなく、防備のない側を切るのであります。

目の前に、大きな困難が起つたら、この狼や、ヤマアラシのことを考へてご覧なさい。そして、かたを付けようと急いではなりません。我慢なさい。アフリカ西海岸の土人が、猿を捕へるやうに「駆けて、捕へようとしては、何の役にもたゝない。イエ、イエ、そつと／＼猿を捕へるのです。」といつてをります。

「ホワイト・フアング」の話の中に、かの若い狼が、インド人に捕へられました。そして、一緒に住んでゐる中に、全く馴れたのでした。併し、飢饉になると、土人共は、幕舎の周りに、澤山の犬を飼つて置く食物がないので、この可哀相な動物は、森の中に、なげられて、自分で食物をあさらなければなりませんでした。

その結果は、かうでした。犬共は文明に育つてゐるので、食物を、與へられるのに、慣れてゐたので、狩のしかたも知らず、大抵の者は、餓えて死ぬか、山の狼に殺されて、食へられてしまひました。併し、「ホワイト・フアング」は、狼の子として、生活を始めたものですから、自分で狩をすることが出来、結構に生きてゐて、或日、火を焚いて、料理をする嗅がする幕舎を見付けて、飢饉

が終つたことを知り、再び、もとの主人の處に歸つて來ました。

併し、この犬共にあつたことは、未開地に出かけて行くと、子供等にも、多くありさうなことです。子供の時分に、自分共のことをしたり、自分共の方法を立てることも知らなかつたならば、決して、成功しないでせう。

併し、幼年健兒や、少年健兒のやうに、暮して行くのに入用な仕事を皆習つた者は、他に行つても、大なる成功を得ませう。

それだから、幼年健兒の間に、是等を皆學ぶために、一生懸命にやつて見ると、考査は、皆及第するやうにやつて、その業に巧な者に與へる技能章を得るのです。後で、ほんのスカウトにならうとする時に、役に立つのです。

私は、狼の家族が、出かけて行くのを見たことがあります。親狼が二匹前に行き、狼の子が、そのあとに、ちよこ／＼ついて行くのでした。親狼は、子供等に、偉い獵師になることや、人に捕へられないやうな術や、業を最も注意して教へることが必要でした。彼等は、野獸の中でも、最も利巧な、最



も考のある者です。それで、立派なスカウトになつた人は、自分共を「狼」と呼ぶのも尤なことです。

### 狼は従順である

狼が、子供に教へるのは、澤山ある。それを、人間の子供も學ぶべきものであります。

狼の子が、蝶を喰へ廻してゐるのや、互にひつくり返つて遊んでゐるのを見たでせう。その中に一匹の者が、何か冒険でもして見ようと、ちよこ／＼出かけるのもあります。

年とつた母の狼は、前足に頭をのせて、近くに臥て居ります。急に頭を上げて、うろ／＼してゐる者の方を、ずつと見て居ります。子供は、直ぐ止まつて、母親の方を見て、少したつと、急いで戻つてまゐります。何もいひません。何の音も立てませんが、鋭敏な子は、これを了解して、直ぐにそれをします。それは従順であります。人間の子供も、それをなし得る處であります。何の用があるか御覽んなさい。そして、いはれたり、命ぜられたりするのを待たずに、それをなさ

それは、狼が大きくなると、あんなにも、よい狩人になるわけでありませぬ。隊は、一緒に仕事をします。そして、頭の狼の命令に従ひます。兎や鹿の狩をする時は、どれでも、之を捕へて、自分で、それを食べたいと思ひます。けれども、狼の頭は、これを許しません。

全隊の者は、フットボール競技者の組のやうに、各異つた任務があります。最初に、鹿を見つけた者は、早く駆けて先き廻りをし、鹿が逃げようとする途を遮り、後に付いて来る者は、樂に駆けて、先に立つた者が疲れると、その代りになつて進むことが出来るやうにし、そして、鹿の先に駆けます。

角で戦闘をし、岩を後にして、又向ふ鹿であると、彼等は、それを圍んで、靜に坐り、そして機會を待つてゐます。一匹か二匹が攻撃する風をして、鹿が突撃すると、他の者が突進して、後から喰止めます。

又、臆病な動物を狩る時は、その隊の或者は、突撃を企てずに、靜に、前の方に逐つて行きます。それは早過ぎて追つ付かないかも知れないのですから。

併し、徐々に進行してゐる間に、最もよい狩り手を、一、二匹大速力で、前方の通路に迂廻さ

せませぬ。そこに彼等は隠れてゐて、その来るのを待つてゐます。狩られる方では、敵が何時でも、靜に後について來てゐると思つて、前方を警戒するのを忘れてゐます。さうすると、突然攻撃されて、新しい敵にまけてしまひます。

そこで、一隊の狼が、總て、各任務があることが解りませぬ。彼等は、フットボールの組で、競技者が、主將の考に従つて、働くのと同様に、その隊の狼の頭の希望に従ふのであります。頭は、命令を叫ぶには及ばないのであります。

競技をしてゐる時には、主將は、一々突進せよとか、ボールを味方の誰に渡せとかいふのを待つては居りませぬ。凡て自分でするのであります。主將の望を知つて、云はれずに正しいことをするのであります。競技をするのは、只面白いからするのではなく、味方に勝たせたいからであります。

それは、要するに、競技をするのと同様に、健兒の大任務であります。

#### 幼年健兒隊のおきて

一、幼年健兒は、長上に服従します。

藪では、年とつた狼は、賢明であります。そして、狩に成功するのには、何が一番よいかを知つて居ります。そこで、小さい者は、だれでも、常に直ちに服従します。年をとつた狼が、見えない時でも、小さい者は、その命令に従ひます。それは、隊の各の者が、立派に、競技をする任務があるからであります。

處で、我幼年健兒隊に於いても、さうであります。幼年健兒は、そこにゐても、又見てゐないでも、父母、隊長の命令に服従します。一番小さい健兒は、何時でも、長上の望む處を知つて、一番よく仕事をするので、常に信用が出来ます。

二、幼年健兒は、自分にはまけません。

若い狼が、自分や、隊のために、食物を得るために、兎を狩らうとする時は、疲れたと思つたり、休まうと思ふことがあります。併し、たちのよい者であれば、自分には負けずに、「くつつて」ゐて、全力を盡し、他の謀もやつたりして、追つかけて行きます。遂には、兎も自分と同じやうに疲れてゐることを發見し、そして御馳走が得られます。

我々の隊でも、さうです。健兒が、箱を造つたり、泳を學んだりするやうな仕事を與へられま

せう。面倒で、疲れたりするかも知れません。若し、思ふ通りにしようとする時、投げ出さうと思ひませう。併し、健兒は、自分にまけません。それにくつついて、他の方法を盡し、自分の全力を盡して、遂には、よく行きませう。

處で、内に行つたら、習つた事を記憶してゐて、やつて見るのです。健兒は、常に練習するのですから。

即ち、

岩の圓と、教練圓、

健兒咆哮、

敬禮、

誓約、

及健兒の二つのおきて、

氣を付け



「氣ヲ付ケ」といふ號令がかゝつたら、健兒は、兵隊さんのやうに、直立し、踵をつけ、手を兩側に下げ、胸をはり、頭を上げ、眼は前方を、まっ直ぐに見るのです。——側見をしてはいけません。



「休メ」といふ號令が下つたら、足を離して立つたり、手を後に組んだり、思ふやうに、あたりを見てもよいのです。



「集レ」といふ號令を聞いたら、直ちに駈けて、岩の圓か、教練圓を組んで、指導者の周りに集り、樂に立つたり、地面に坐つ

たりして、號令を待つのであります。

### 教練圓の組み方

隊が、岩の圓をなして集つたら、隊長は「教練圓ヲ作レ」といふ號令を與へます。各健兒は、隣の健兒と手を握り、開いて、大きい圓を作るのであります。

教練の終に「ワカレ」といつたら、しやがんで、始めのやうに、吠えるのを繰り返へすのであります。それから、家に歸るのであります。

### バルーとバギーラの踊

今度は、教練圓を作つて、熊のバルーの踊をやつて見ませう。熊は、チャングル・ブックにある動物で、他の動物共に、藪のおきてを教へたものであります。そして、根性のよい、太い老つた者で、太つた巡査によく似て居ります。

それ故に「バルー」と號令を與へたら、各健兒は、先頭について、靜にボンチにあるやうに、威張つて、胸をつき出し、肘をはり、顎を上げ、怖ろしいやうに、左右を見廻はし、四角ばつて

進むのであります。そして、進む時に、先頭は、皆に知れるやうに「健兒は長上に従ふ、健兒は自分にまけない」と健兒おきて二つ、聲高く叫ぶのであります。

隊長が、止まれと、合圖をしたり、號令を與へると、健兒共は、直ぐ止まつて、他の號令があるまで、「氣ヲ付ケ」の姿勢をして、紀律正しく立つてゐるのであります。

(音樂——「テディー、ベア、ピクニック、」又は「ポリースマンス、コーラス」パイレーツ、オブ、ペンザンス)

バギーラは、黒い豹で、木にも登れば、夜分には、影の處で、そつと這つたり、全く見えないやうにしてゐるものであります。そして、勇氣もあれば、忍耐力もあり、力もあり、術もある狩り手であります。

豹は、いざとなると、猛けく、怖ろしくなりますが、心は親切なので、モーグリーに、狩をして、食物を得る方法を教へました。

バギーラ踊には、健兒は、豹になるのです。

全隊が、教練圓を作り、各健兒は、右や、左を見て、狩をする得物を探し、しゃがんで動いて

行くのです。突然得物が見付かると、各健兒は、しゃがんで、頭を向けて、鹿が草を食つてゐると思つて、圓の中央の方を見る。見られないやうにするために、そつと、四つ這ひになつて、中央に向ひ、鹿を驚かさないやうに、少し退くために、一三歩這ひさがります。それから、各健兒は、中央の方に這ひ出すのです。近かよるに従つて、皆が、段々地面につき、一層靜にするのです。彼が近かよると、皆平になつて臥てゐて、「そらー」といつたら、皆がかけ聲をかけて、假想の鹿に跳びかゝり、これを掴へて、すたく〜にしてしまうのです。それから、皆が退いて、自分の場處にかけもどり、教練圓になり、運んで來た假想の鹿の肉をかむまねをします。

踊の間、各健兒は、先頭の方を見てゐて、直ぐ、同じことをしなければなりません。

### 母性謝恩日

功績を擧げた最初の幼年健兒隊の一つは、第一ウエストミンスターでありました。その隊は、私の小さな子供のピーターが、生れて數ヶ月にしかならなかつたのですが、その團長にしたのでした。ピーターは、その隊の教練に出席して、隊の先頭に立つて、進んで行きました。——(乳

母に抱れて、

この教練を、最も興味をもつて見てゐた者の一人は、私の年とつた母親でありました。その時には、九十歳でした。幼年健兒共が、母が窓の處に坐つてゐるのを見て、歡呼を三唱した時に、非常にありがたく思つて、子供等に禮をいひたいと、私に何べんもいつたのでした。母は、その孫の嫁であつたので、自分の孫共のやうに思つたのでした。

私の母のことを話す序に、英國の古い慣習であつた、昔の幼年健兒が、その両親に對する義務、即ち、幼年健兒のおきての第一則を、今でも守るべきことを、心に留めて置いてもらひたいと思ふのです。それは、かうであります。

一年中の或日は、たれでも、その母に、特別の感謝をしたことです。プロテスタントや、ローマン・カソリック教では、ミッド・レント祭の日曜日でありました。併し、是等の特別の宗派に屬しない子供等には、あまり感心しないけれども、母親の誕生日にすることが、よいことであります。その行ふことは、その日に、母に對する尊敬と愛情の印として、少しの贈物をするのであります。

若し、母がなくなつたら、お墓に花を供へることも出来ませうし、——又は、墳墓の地を遠く離れてゐる時には、その牧師に金を送つて、お墓に花を供へてくれるやうにたのむことも出来ませう。又は母が望むだらうと思ふことをすることが出来ませう。

いづれにしても、自分を生んでくれ、はぐんでくれ、育ててくれた母を、特に思つて、尊敬するといふことは、よいことであります。母親が子供をもつて、得意に思ふことをし、又悲しみ辱かしく思ふやうなことは、決してしないといふやうにしなければなりません。母親は非常に自分のためにしてくれました。それを母親にするのです。

### 遊技、「歩哨」

若いフランスの兵士が、或暗い夜、森の中を警戒してゐた時に、突然敵に包圍された話を知つてゐませう。銃劍を胸に突きつけて、耳に口をよせていひました。

「一言でもいふと、殺すぞ」

靜にしてゐて、何もしなかつたら、命は助かつたのでしたらうに、大きく息を吸つて、聲をは



り上げて、叫びました。

兵は瀕死の有様で臥てゐた時に、事變の起つた喇叭が響き、聯隊の兵が武器を持つて突進する音が聞えたので、自分の命を捧げて、味方を救つたことを知り、満足して死にました。

これと同様に、探險とか、兵士とか、斥候とかいふ者は、誰でも、仲間のためには、危険を冒し、困難に當る準備をしてゐなければならぬのです。そして、時としては、この若い兵士のやうに、仲間のためには、死ぬ用意さへもして居らなければならぬのです。

又、屢々、非常につまらない、面白くない仕事でも、仲間のためにはしなければならぬのです。

長い一日の行軍の終に、足がいたみ、體がいたくても、仲間の者が眠つてゐる間は、營所の周を繼續して歩哨をしなければならぬのです。どれほど疲れ果ててゐても、敵や、野獸や、他の危険に對して警戒してゐて、仲間の者が、自分の當番を信用して、眠つてゐることを知つてゐるからであります。

又、次の當番を、更替當番の時刻より、一分間も早く起さうとは思ひません。何せなれば、よいスカウトは、するけ者ではありませんから。それ處ではなく、自分の正常な分擔以上に、他の者

の爲めにしようとするのが、多いからであります。

仲間のためには、生命を培し、又は、食事の後に、食器を洗ふといふやうな事も、全く同様なことでもあります。するけ者は「それは、私の仕事ではありません」と小言をいつて、ほつて置く事を何時でも、さつさと、喜んでするのであります。

同様に、幼年健兒は、内にゐても、常に、何か少しの仕事をする用意をしてゐるのであります。——倶樂部の室の床を拭いたり、瓦斯に、新しいマントルを付けたり、成すべきことは、何でもするのであります。

ここに、一人の子供が、他の者が、一層活潑に、楽しいことをしてゐるのに、「歩哨」といふ面白くない任務をする遊技があります。それは、義務だからするのであります。

### 歩哨遊技

二組参加する。一組の健兒は、腕の廻りに、赤布をまき、他の者は、青布をまく。

赤の一人の健兒は、四方から、容易に見える場處を占める。十碼、歩調をとつて、あちこちと

歩くのであります。

胸には、十二吋四方より少くない厚紙に、符號をつけて、サンドイッチのやうに、頭からかぶつて下げるのです。

十歩歩いた度毎に、他の符號を交換するのです。各の側に、別の符號を付けた臺紙を、皆で六枚持つてゐます。上のやうな符號であります。

青組は、見られないやうに、附近に這つてゐて、順番に出てくる符號を、書きとらなければなりません。

次の番で、青の一人の健兒は、他の符號を澤山持つて、同様に、歩哨の任務につき、赤組は、その偵察をして、報告を作る。

歩哨になる者は、あちこち歩いて、臺紙を變更するより外のことは、致しません。が、他の者は、互に、腕の布をとつて、捕虜にすることが出来ます。

布をとられた子供は「死」んで、競技のそとに出るのであります。

健兒は、何處にゐるといふ制限はありませんが、組長は、何人は出て敵をとり、何人は、敵の

歩哨の偵察をして、信號や、符號を読むかをきめなければなりません。

競技の終りに、審判は、報告を全部集めて、正しい報告が、いくつあるかを數へるのです。六個の符號をどれでも、健兒手帳に正しく書くと、味方に一點とつたことに數へるのです。それだから、健兒は、名譽にかけて、手帳を、互に見せ合つてはならないことになつてゐます。

多分或者は、歩哨はつまらないと思ふかも知れません。併し、自分で面白いことがなくても、他人のために、仕事の分擔をすることを學ぶといふことは、自分には、よい練習であります。

自分で、かういふのです。

「皆、その日の仕事だ」

### 眞の狼は「遊技をする」

狼のやうな野獸でも、他人に對する善行をするといふ何か義務の考と、「遊技をする」といふ考があります。

例へば、一匹の狼は、叢林地に入つて、あちこちと動いて、狩り立てることをしませう。黙つ

て、困難を冒し、兎や、鹿や、鳥などを狩つて、自分のために、突進してとつろとはしません。林の端近くや、逃げ途に近く、他の狼が待ち伏せして、得物が、手のとどく處に来るまで、樂に待つてゐて、それから、跳び出して、之を捕へるのです。

若し、一匹の狼が、他人のために、かゝる欲のない仕事をする例を示すならば、人間の「狼の子」たる諸君は、確に、諸君の仲間に、同じ事をして「遊技をする」ことが出来ます。それがために、他人を助けて、つまらなくても、皆がおかけを蒙るやうになるのです。

## 第五 食

フラウニー——どうして、役立つ者になるか——善行。

### フラウニー

叢林に、年とつた梟が住んでゐました。眼は大きく、黄色で圓く、頭には、耳のやうな小さな房が二つありました。氣の弱い子供等は、夜分ばかり出て、おばけのやうな、氣味の悪い叫び聲をするので、怖がつてゐました。併し、山にゐる子供は、たれにも親切な、かしい者だといふことを知つてゐます。その村に、トミーと、ジョニーといふ二人の子供がある、仕立屋さんが住んでゐました。母さんが死んだので、父さんと、年とつた祖母さんと暮してゐました。祖母のガラニーは、二人を可愛がりましたが、子供等は、なまけて、忘れつぽくて、だらしないので、何時でも叱つてゐました。叫んだり、遊技をしたりして、そのへんを駆け散らし、道具をひつく

り返へし、土器は毀し、衣裳は汚し、大抵は、いたづらをしつつ居りました。はしやいでゐる中は、人に迷惑をかけるなどといふことは、少しも考へませんでした。

さうするとグラニーは、昔、ブラウニーが来てゐた時とは、家の様子は、異つたといふ話をしました。ブラウニーは、何ですかと、子供等が聞きたがつて居りました。

祖母さんのいふのに「ブラウニーといふのは、小さな小人で、人が起きる前に家に来て、爐を掃除して、火を焚き、水を汲んで、朝食の用意をし、室をかたづけ、庭の草をとり、何んでも、役に立つ仕事をしてくれたのですが、誰もそれを見た者がありません。何時でも、家の人が起る前には、そつと行つて了ふのです。併し、誰れでも、大助かりでした。皆がうれしがり、家は、びか／＼して、奇麗でありました。

そこで、トミーと、ジョニーは、どうしたら、ブラウニーが、家に来て、手傳をして、何時でも、父さんや、祖母さんが、いひつけるやうな仕事をしてくれるか知りたいと思ひました。

ブラウニーが、どうしたら見つかるか知らせて下さいといつて、祖母さんに、たのんだのですが、行つて、賢い年とつた梟を見つけて、それにきいて見るのが、一番よいといつてくれました。

多分梟は、フェアリーのことなら、何んでも知つてゐて、ブラウニーが何處にゐるか知つてゐませう。

そこで、長男のトミーは、暗くなつてから、出て行きました。トミーが、年とつた梟のなき聲を聞くと、そのまねをして、近かづいて行つて、話をしました。トミーは、何時でも、遊ぼうとすれば働けといはれて、何時でもこまつてゐることや、よいブラウニーが、来てくれて、内に居つてくれさへしたならば、自分で餘計な仕事をせずすみ、そして、結構樂が出来ようといふことを話しました。

「オ ホー。ホ ホー、ホ ホー、ホ フー。」と、年とつた梟がいつて、「向に、あの水溜が見えませう。月が出てゐる時に、その北側に行つて、三遍廻つて、いつてご覧なさい。

私をつまんで、私を廻して、小人を見せてください。私は水の中を見ると……………見えませんでした。

歌の結句を得るために、水の中を見てごらんなさい。ブラウニーが見えませう。その名前は、ほしいと思ふ、歌の結句になります。」

そこで、月が上つた時に、トミーが、水溜りまで行つて、三遍廻つて、叫びました。

「私をつまんで、私を廻して、小人を見せてください。私は水の中を見ると……見えました。」

併し、水溜りを見ると、自分の影の外は、何も見えませんでした。

そこで、梟の處に、戻つて行つて、内に來て、仕事をしてくれるブラウニーが見えるかと思つて、水の中を見ると、自分の影しか見えませんでした、と話しました。

その時に、梟がいひました。「私のいつた歌の結句となるやうな名前の人が、見えなかつたですか。」

「誰れも見えません。」とトミーがいひました。

そこで、梟がいひました。「水の中に、誰が見えましたか。」

「私の外に誰も見えません。」とトミーが考へました。

「自分」は、歌の結句になるではありませんか」と梟がいひました。

そこで、トミーが、歌のことを考へて見ました。

「私をつまんで、私を廻して、小人を見せてください。私は水の中を見ると、自分を見ました。」

「けれども、私はブラウニーではありません。」

梟がいふのに「イエ、あなたはなれます。ならうと思つてブラウニーになれます。あなたは、丈夫な小さい男の子であります。あなたは、床掃除も出来ませう。あなたは、利巧ですから、火も焚けませう。湯沸に水をついで、湯を沸すことも出来ませう。室の整頓もできませう。朝食の仕度もできませう。寢床を作つたり、衣裳もたたませう。こんなことは、父さんや、お祖母さんが起きて來て、フェアリーが、仕事をしてくれたかと思ふやうに、誰も起きない中に、することが出来ませう。」

ブラウニーといふのは、内に住んでゐて、善いことをする小さな人であります。

或家には、ブラウニーではなく、ボガートといふのが居る處があります。それは、小さな鬼神です。人が、読み書きをするために、静かにしてゐやうとしたり、不快であつたり、疲れたと思

ふ時に、ボガートは、そのへんを駆けたり、騒いだりします。

内が奇麗に、整頓してゐるのに、この鬼共が来て、物をひっくり返へしたり、道具や、土器を破したり、物を散らして、人に掃除の世話をかけます。自分では汚くして、なまけてゐて、親の手傳もしません。

ボガートは、怖ろしい小さなものであつて、ブラウニーとは、全く違つて居ります。

併し、ブラウニーは、ほんとうのフェアリーではありません。家に住んでゐる普通の男の子や、女の子であります。床にねてゐて、ボガートのやうなことをせずに、よい時分に起きて、よい事をして、ブラウニーになれるのであります。

ブラウニーは、ありがたうといはれたり、禮を貰ひようとはせずに、そつと仕事をします。それは、父母や、家族に對する義務だからであります。時としては、疲れたり、遊びようと思ふ時には、面倒なこともありません。併し、之れは、義務であります。義務は何より第一であります。そこで話にもどつて、トミーとジョニーとが、年とつた臬のいふことをきいて、朝早く起きました。

掃除をしたり、火を焚いたり、朝食の用意をしてから自分の室に、そつと入つてゐました。父さんや、お祖母さんが、用をしなければならんと思つて、起きて来て見ると、何でも、しつかり出来てゐるので、驚きました。そして、フェアリーが来たなと思つたのでした。

何日も何日も、かういふやうにして行くと、子供は、亂暴な遊技をするよりも、自分共の義務をする方が、もつと面白くなりました。長い間たつてから、ほんとのブラウニーは、誰だかといふことが判りました。

このやうに、幼年健兒は、騒ぎなんかしないで、毎日父母によい事をして、自分の内で、ブラウニーになることが出来るし、又なるべきであります。

健兒は、決して、ボガートではありません。

そして、内でよい事をするばかりでなく、家を出て居つても、學校では、先生や、お友達に、俱樂部では、隊長や、健兒同士に、往來や、電車、瀧車、村などで、人に遇つたら、人によい事をするのであります。

何處で、人に役に立つ機會を見ても、健兒は、それをなすべきであります。——それは義務で

ありますから。そして、それが爲めに禮をとつてはなりません。

注意。——この話のものは、Mrs. G. H. Ewing の "The Brownies" であります。健兒が讀むためになります。

### どうして役立つ者になるか

あなたは、朝とこを上げますか。上げなかつたら、なぜしないのですか。あなたは、大丈夫出来ます。自分でそれをするならば、人手がはぶかりませう。

私は、何時でも、自分の床を上げます。そして衣裳をかたつけたり、室を整頓したりしてゐることを知つてゐますか。健兒は、きつと同様にすることが出来ます。又私は、内では、大抵人よりは早く起きます。そして、人が来て、火を焚きつけてくれるのを待つて居りません。自分でします。——私は好きです。

寝具整頓。床を吟味して、敷布や、毛布の敷き方を見て、翌朝は他人に云はないで、同じ様にするのであります。これができてゐたら、人がどんなに驚くこととせう。

床を整頓するには、敷布や、毛布を皆とつて、空氣にあてることを忘れてはなりません。藁布團は、ひつくり返へして、昨夜上であつた方は、今晚は下になるやうにしますので。これは、こごりになつたり、穴になつたりしないためです。敷布や、毛布を敷く時は、よく氣を付けて、平に、皺のないやうにし、人が敷き直す要のないやうにしますのであります。

火の焚き方 (第二部、第九章及原書一七二頁——一七七頁を見よ)

窓の拭き方。濕布で拭き、乾いたので磨き、窓がひかつて、奇麗に見えるやうにする。

靴の磨き方。これは、靴磨きをしてゐるのを見ると、一番よく解ります。お客の靴を、色々なことをしてゐるのをごらん下さい。私は、靴磨きが好きです。柔い布や、「ブラッソー」で、眞鍮物を磨くのと、殆んど同じに面白いことです。

清掃。皿、コップ、ナイフとフォークを拭くのです。併し、ぶきやうにして、コップを打ちついたり、毀したりしてはいけません。油けをとるためには、湯でなければなりません。後で、乾して、磨いて置く。

敷物の掃除。前日の濕れたお茶がらを、敷物の上にふりまいて、掃き集めて、塵をとるのです。

衣服、手拭、靴下の洗ひ方。洗濯物に石鹼をつけ、ぬる湯に、巻いて漬けて置く。それから、水で洗ふ。清い水ですゝいで、かけて干す。アイロンをかけないで、ハンケチなどを滑かにするには、濡れたまゝ、窓硝子や、鏡に張つたまゝ乾すのです。

子守りの仕方。うつちやつて置いて、他の子供と遊ぶのではありません。あなたはブラウニーの任務を帯んでゐます。ですから、哨兵のやうな者ですから、場所を去つてはなりません。往來や、自働車の通る處や、奔馬などの危険のない處に居らなければなりません。

お使ひ。出来るだけ早く駈けて、普通の子供のやうに、使を誤つたり、忘れないやうにするのです。

こんなことは、ブラウニーが、家に於いての、二三の注意であります。第二部、九章には、まだ澤山述べてあります。

## 善行

人の包物を運んだり、こんでゐる車中で席を譲つたり、途を案内したり、婦人に戸を開けてや

つたり、老人や、盲人や、子供等を助けて、往來を通してやつたり、喉の渴いてゐる犬や馬に水をやつたり、他の子供が、鳥の巢を破したり、とつたりするのを保護することは、常になすべきことであります。こんな種類の幾多の善行をば、善行をなすといふ約束を實行するならば、幼年健兒がなすことが出来、又、なさねばならぬことでもあります。

そして、善行をしたとて、決して禮を受けてはいけません。若し、老人のために、重い荷物を運んだり、自働車を呼んでやつたので、お金をだしても、「ありがとうございます。私は幼年健兒であります。善行をするのは、私の義務であります。私は、それが爲に、お金をいただくことは出来ません。ありがとうございます。いただいたと同じことでもあります。」といつて、禮をなすべきであります。

或子供等は、善行した時に、他の子供等や、親や、友達に、非常に偉い事をしたやうに、これを誇りとする者があります。それは、健兒の作法ではありません。——健兒は、したことを知らん顔して居ります。

或日、私の友の老紳士は、うら通りで、悪漢に襲はれました。その悪漢は、腹を打つて、金時



計をとつて逃げてしまひました。幸にも、少年健兒が、近くにゐて、單身突進して、追跡しました。盜賊を捕へることが出来なかつたが、近く迫つたので、悪漢は、とつた時計をとられはせぬかと思つてこれを落して、逃げて行きました。

健兒は、賊には追ひつかかなかつたが、その時計を拾ひとつて、老紳士の處に戻つて来て、時計を渡し、馬車を呼んで、これに乗せ、何の誰だか、又、何の隊に屬してゐるかもいはずに、立ち去つてしまひました。

老紳士は、お禮をしたいから、その少年を見付けてくれるように、私に頼みましたが、私はどうしても探すことが出来ませんでした。その健兒は、自分の義務を果したのです。そして、他人に誇りもせず、いひもしませんでした。義務だからしただけのこと、褒美も、報酬も、得ようとは思はなかつたのです。

少年健兒は、かうするのです。——幼年健兒もさうです。

### ズールーの子供の遊技

幼年健兒の一人は、ズールーの子供であります。白いものを塗つて、藪に逐ひ出され、その土人に狩り立てられるのです。

白いものを塗る代りに、我々の遊技では、紙で造つたのがつた帽子を冠り、遊技の間に、それをとられてはならぬのです。

或時間を定め、帽子を冠つた者は、藪に逐ひ出されて、かくれてゐるのです。「藪」といふのは、教會、學校、高い木などのよく知れた場處を中心として、どの方向からも、六百碼ある地域でやるのです。

出だしてから、十分間の猶豫を與へ、その間に、逃げて、かくれるのであります。

それから、土人にあたる隊は、二人伴れとなつて、散解して、各方面を狩立てるのであります。白い帽子を冠つてゐる者を追跡したり、通行者に問うて見てもよいのです。見付けたら、之を追つかけて、帽子をとるのです。

併し、二人伴れですので、一人では捕へても、無効です。

白の子供は、規則で許さなければ、民家にかくれてはいけません。馬車や、車に乗つてもよ

5のです。

併し、何時でも、帽子を冠つてゐなければなりません。

一時間、帽子をとりおろすと、勝になるのです。

## 第六 食

藪踊——制服——見習紋任——組

### 藪 踊

全隊が、教練圓を作り、隊長又は、組長は、藪踊の號令を與へる。隊は、咆哮で始めて、次の順に進行し、代り番に、何か動物の踊をするのである。

咆 哮

パ ル ー

バ キ ー ラ

シーア・カンとタバタイ



軍服を著てゐる兵士や、水兵のやうな者であります。是等の立派な人々は、負傷をしたこともあれば、困難にも、苦痛にも、遇つたのであります。そして、多くの者は、義務を果すために、身にふりかゝる困難を顧ずに、身命を捧げたのであります。

諸君も亦、幼年健兒の一人として、諸君の義務に當り、どんな困難があらうと、どんな危険に陥らうと、これをなすことが出来ることを、人々に示すことが出来ます。そんなことは、かまひません。

### 幼年健兒には、何より義務が第一

義務とは何ですか。

幼年健兒の誓約や、おきてを行ふことであります。それですから、ほんとうの幼年健兒になるには、これを暗誦してゐて、常に、行はなければなりません。

それですから、今日は、既に學んだことを、覚えてゐるか、どうかためて見ます。

#### 幼年健兒の誓約、

幼年健兒のおきて、

氣を付け等。

敬禮

咆哮

圓形

藪踊

### 考 査

(そこで、隊長は、各自に、前の四項を吟味し、そして、全隊は、以上の残りをするのであります。それから、隊長は、各に、見習章の考査をするのであります。)

### 見習級任

級任するには、

假入團者（即ち新團員）を、教練團に伴れて出る。

その帽子を、これに對して立つてゐる隊長の足元に置く。

隊長、君は幼年健兒隊のおきてと敬禮とを知つてゐるか。

健兒、ハイ。知つてゐます。

隊長、おきては、何だか。

健兒、幼年健兒は、年長健兒に、服従します。

幼年健兒は、自分に、降参しません。

隊長、幼年健兒の壯嚴な宣誓をする準備が出来たか。

健兒、ハイ。出来ました。

私は、私の最善を盡すことを誓約致します。

神と王とに忠誠に、私の義務を盡し、幼年健兒隊のおきてを守ります。

毎日誰れかに、善行を致します。

（誓約の間、全隊は、敬禮して立つ。）

隊長、私は、君が、この誓約を守るために、最善を盡すことを信用する。君は、今から、幼

年健兒で、健兒團の大兄弟の一人である。（徽章を與へ、帽子をかぶせる。——帽子を正しくかぶせることに注意する。——そして、左手で握手する。健兒は、徽章を、右手から、左手に持ち代へて右手で隊長に敬禮する。それから、廻れ右をして、隊に敬禮する。隊は、見習を隊に歓迎する意味で、答禮する間、暫く「氣を付け」をして、止まつてゐる。それから、自分の組に加はる。式は、健兒の咆哮で終る。

### 組

今から、君は、もう假入團者でなく、隊の制服をきた見習であります。そして、又、見習以上の者であります。君は、隊の一員である許りでなく、隊を作る處の組の一人であります。組は、組長の下に六人で出来てゐて、この六人の者は、作業をするにも、遊技をするにも、常に一緒に、各組は、狼の色によつて、名を付けて、——黒色組、白色組、灰色組、黄褐色組、又は、赤色組といはれて居ります。

各健兒は、組の色の布製の三角形の徽章を、その肩に付けます。

組の指揮者は、組のアケーラ又は年長狼であつて、常に、その命令に従はなければなりません。彼は、組長と呼ばれて居ります。

見習は、非常に若い健兒で、健兒咆哮と、健兒誓約と、健兒おきての二つを知つてゐる許りです。併し、第一星章を得るためには、英國旗のことをよく知り、その正しい掲揚法を知らなければなりません。又水兵が索を結ぶに用ふるやうな二三の結索法が出来なければなりません。又トンボ返へりや、他の子供の上を蛙跳びすることや、右手でも、左手でも、輪を廻すことや、右片足で跳ぶことや、左片足で跳ぶことや、ボールを投げたり、とつたりすることや、縄跳や、本を積んで、平均を保つことや、時間をいふことや、手や足、爪や齒を清潔にすることが出来なければなりません。

第二星章は、もつと面倒であります。併し、我慢して勉強すれば、直ぐ兩眼を開いて、信號することや、磁針、靴磨き、火の焚き方、横形作り、を知ることが出来、スカウト体操二節、板渡り、國歌奉唱、貯金などをどうするかといふことが出来ます。(等級章の完全な表は、原書一〇二

## 第七 食

星章——トートテム・ポール——國旗及掲揚法——英國旗構成法。

### 星 章

今、君は、見習になつたから、これからは、星章を得て、之を佩用することを許され、作業がよく出来て、一人前の健兒だといふことを表はすのであるが、健兒の誓約や、健兒のおきてを忘れてはなりませんし、試験のために學んだから、これをなほざりにしたり、之を皆忘れてもよいと思つてはいけません。常に覺えて居らなければなりません。ふだんに、記憶してゐて、何時でも、人に繰り返へして、いへるばかりでなく、毎日各自分दैいつて、これを實行することに、全力を盡すのであります。

諸君は、大抵、少年健兒の徽章を、見て知つてゐます。——上は三枚の葉で、外側の兩翼には

星が二つ付いてゐます。この二つの星が、どういふ意味か知つてゐますか。それは、スカウトになる前に、幼年健兒の二つのバッチリしてゐる——眼であります。——幼年健兒時代に、なすことを學んだ、氣のきいた事を、スカウトが記憶してゐるといふことです。——それから、何でも見ること——地上でも、空中でも、周圍でも、遠近によらず、何でも見のがさないといふことです。この二つの星は、どの幼年健兒でも得られて、帽子に付けられるのです。

それに必要な作業は、幼年健兒のするのには、多過ぎると思はれませう。併し、一方の役に立つ者ならば、一三ヶ月で、それをすることが出来る。そして、骨を折つて見る値打ちがある。といふのは第二星章を得ると、進んで、自分の得意とする他の事をして、名譽の徽章が得られるからである。

次に擧げる物で、自分で好きで、やつて見ようとするものがあつたら、それが得られるのである。

一、自然觀察

二、信 號

七、救 急

八、家事の手傳

- 三、繪葉書、切手等の蒐集
- 四、編物、蔓細工
- 五、圖畫、模型製作
- 六、彫刻、木工
- 九、案
- 十、水
- 十一、競走、跳躍
- 十二、競技

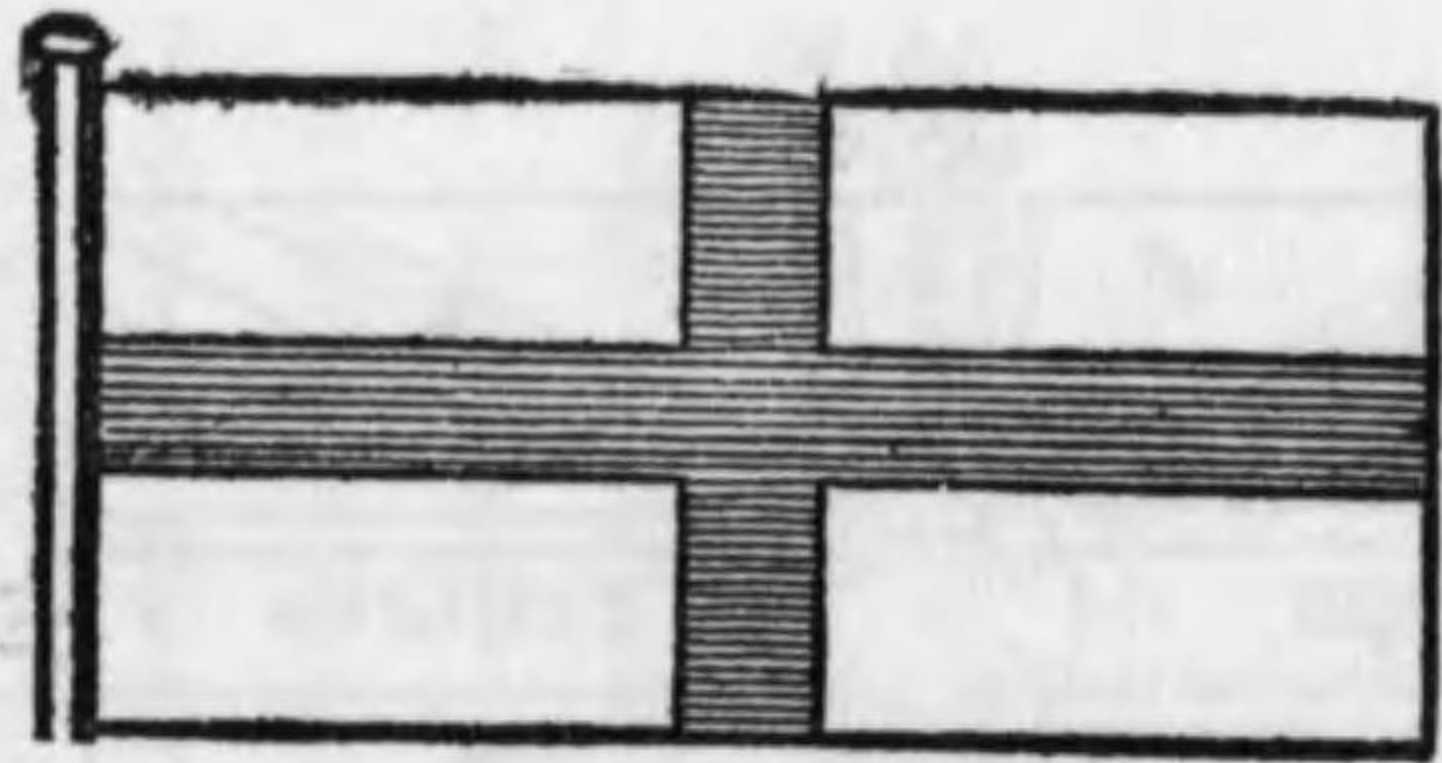
是等を皆とるには及ばない。只適するものだけするのである。そこで、勳章が得られる機会が澤山あることが解りませう。

併し、是等の徽章を得るのに、自分のことばかり考へずに、他人のことを考へなければなりません。第二星章を得ると、組のためにしたことになります。それは、得た各徽章に對して、リボン一本を、隊のトータム・ポールに結へることが出来るからであります。

トータム・ポールといふのは、行進する時にも、教練でも、野營でも、先頭に携へる處の飾り棒であつて、隊の得た名譽を表はすものであります。(原書一四七—一四八頁を見よ)。今度は、どうしたら、第一星章が得られるか話させよう。

### 英國旗と正しい掲揚法

我等の國旗は、一寸見ると、何で出来てゐるか知らない中は、込み入つた者であります。イン



聖ジョージは白地に赤十字。

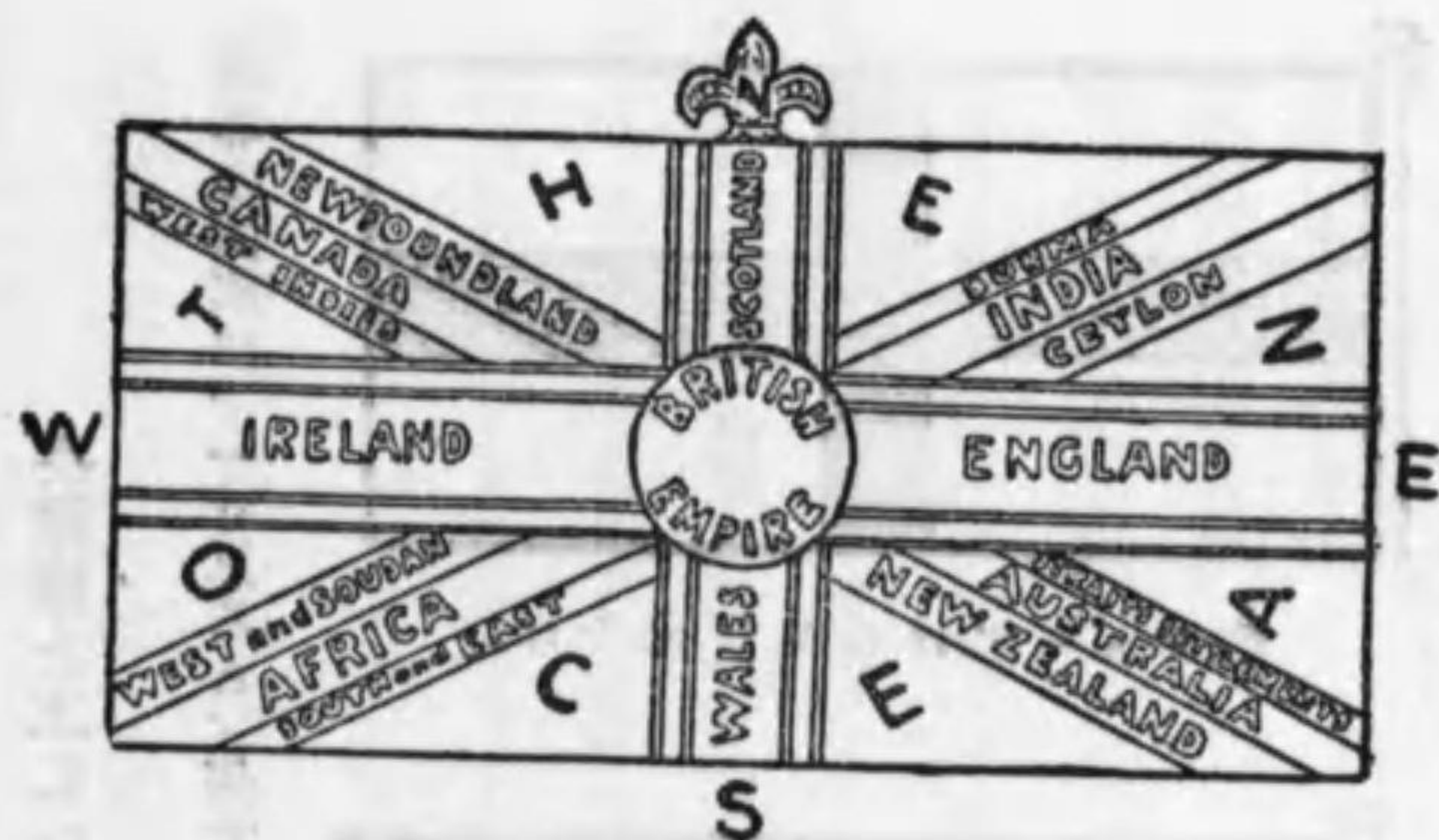


聖アンドルーは青地に白の角十字。



聖パトリックは白地に赤の角十字。





英國旗の意味

グランド、スコットランド、アイルランドには、皆各守神があります。即ち、聖ジョン、聖アンドルーと、聖パトリックであります。そして、旗は、異つた十字で出来てゐて、その守神を代表して居ります。そして、三つが、全く一緒になつて、一つの旗になつたのが、ユニオン・ジャックと呼ばれるやうになつたのであります。「ジャック」といふ語は、古の名から出て居ります。それは、兵士が、鎧の上に着けたシャツのことであります。鎧を着ると、皆同様に見えて、戦場では、敵か味方か見分けが困難でありました。そこで、シャツの上に、その國の守神の十文字をつけたのであります。

このやうにして、白のシャツに、赤い十文字をつけ

てゐる兵士は、今、我々は、聖ジョージのジャケットといふジャケットの下に戦つてゐるイングランド人として知られたのであります。

同様に、我々の船には、同じ旗が、ジャケといふ旗となつて、翻つて、現在に至つて居ります。

### ユニオン・ジャック

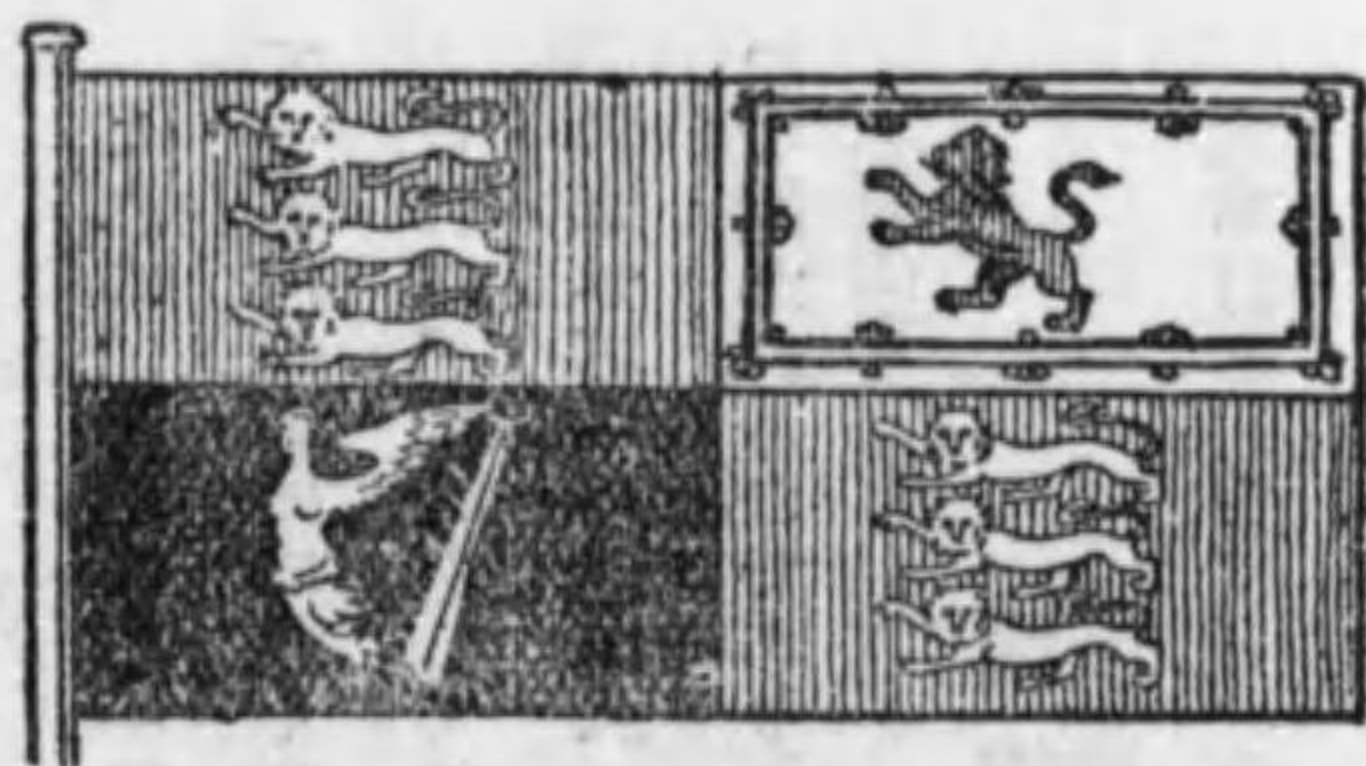
今は、誰れでも、——海洋健兒ばかりでなく、陸上健兒も——英國旗の掲揚法を知るべきであります。それなのに、國旗の正しい掲揚法を知らない者が、非常に多くございます。若しも、英國旗を上下轉倒して掲げたならば、他の健兒の眼には、大變な馬鹿者に見えます。

次頁に二つの旗の繪があります。竿に近い部分は「紐付」と呼ばれ、その端の尾の方は「流れ」と呼ばれて居ります。

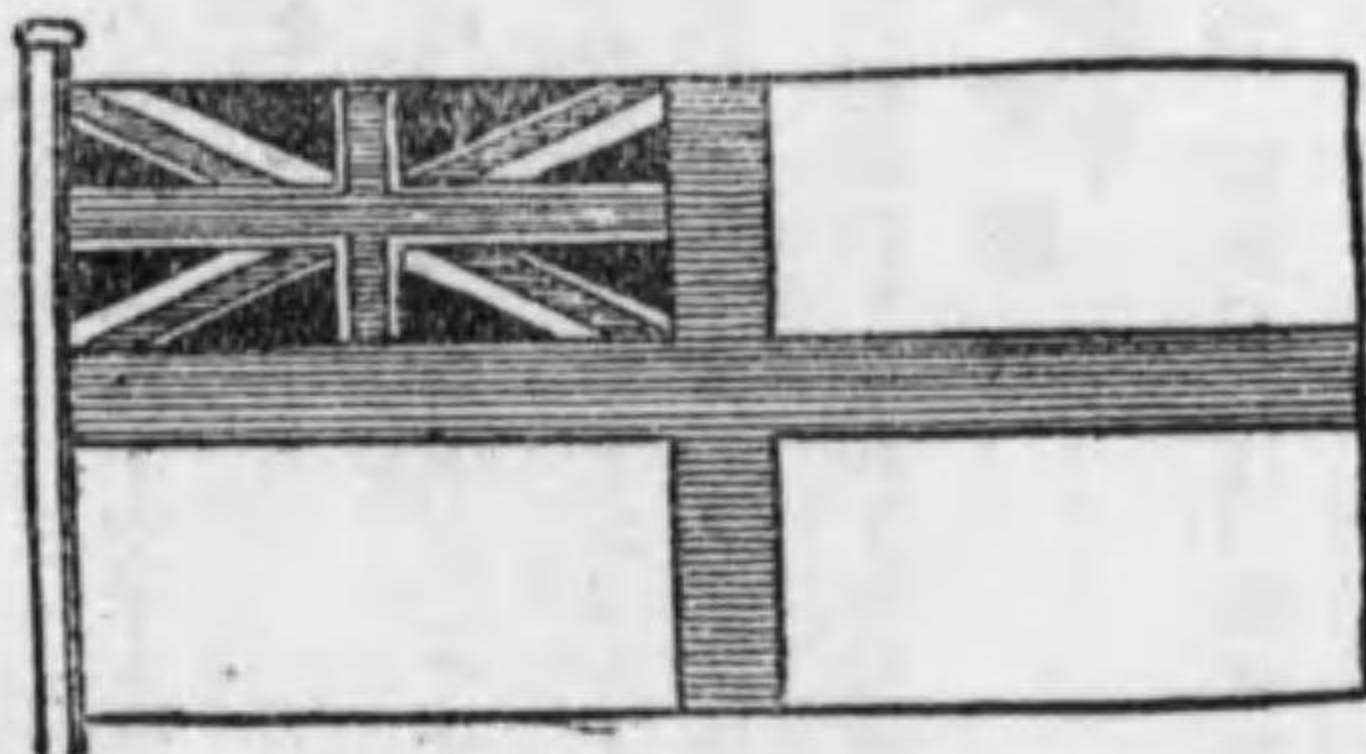
次の繪は、正しい上げ方を示し、下のは、轉倒したものであります。その違ひは、判りますか。よく研究して、後で忘れてはなりません。

ユニオン・ジャックの他に、大英國の他の國旗が、次のものであります。

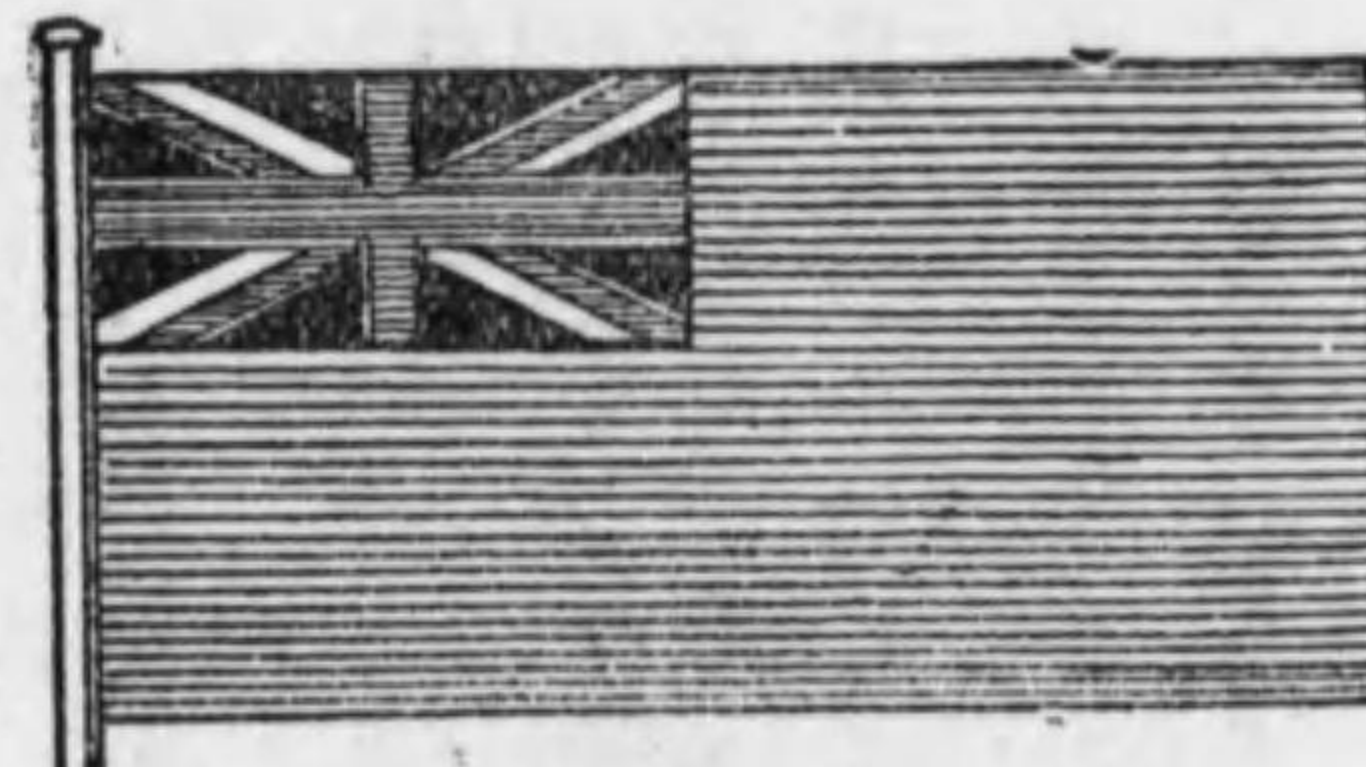
- 軍ばかり掲揚するもので、その他の者で、これを掲揚するのは全く、誤つて居ります。
- 三、左側上方にユニオン・ジャックを付けた赤旗であります。これは、英國人がたれでも掲揚するもので、陸軍でも海軍でもありせまぬ。
- 四、左側上方にユニオン・ジャックを付けた青旗であります。これは、海軍御用船、又は、その



王 旗

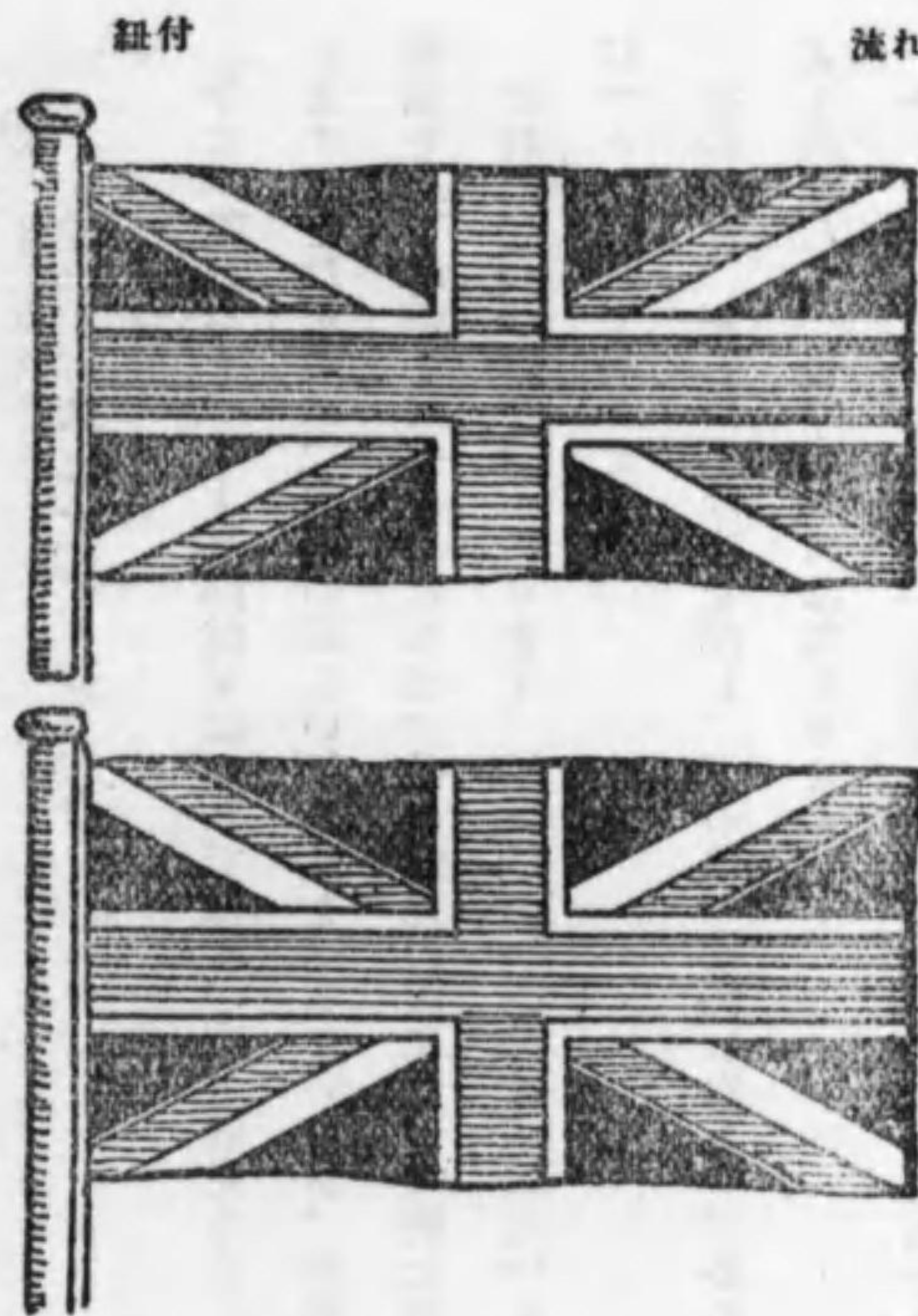


海 軍 旗



通 常 旗

- 一、王旗、王の臨御の時にのみ掲揚するのであります。往來や、屋上等に、これを掲げるのは、全く、誤つて居ります。
- 二、左側上方にユニオン・ジャックを付けた聖ジョージ十字の白地の旗であります。この旗は、海



英 國 旗 掲 揚 法

旗の赤い對角線の腕の片側には、狭い白の線があり、他の側には廣いのがある。廣い方は旗竿即ち旗の紐付近の上になるやうにし、旗の下の方即ち「流れ」といふ方は。翻る方にする上の方は正しい。掲揚法で、下の方は誤つた上げ方である。

船長は、海軍將校である船に掲揚するものであります。その他のものは掲揚することが出来ません。

### ユニオン・ジャックの構造演習

これは、青地の布一枚と、次の型に切つた十文字とで出来きます。各片は、各健兒が、引き取つて、各自の場所に置くのであります。

これは、教練をして見せる時に、儀式的實演としてすることも出来ませう。

青旗が第一に置かれて、海を表はし。聖アンドルー、聖パトリック、聖ジョージの順で、かさねて置かれるのであります。

### 國旗掲揚演習

大木釘と、帶索と、索を持つ。竿頭の索は、暴風雨の天候に、旗の質の張るのを防ぐために、いくらかゆるめて置くことを説明せよ。又、どうして、旗を捲いて、竿頭に上げ、引とけ結で結

ひて、適當の時に、これを「開く」やうにするかを説明せよ。

### 遊技、矢遊び

(質問は、矢を表はし、それで健兒は、負傷するからかくいふのである)

健兒は、圓形になつて坐り、隊長は、中央に坐る。それから隊長は、結索法や、國旗試問や、救急法などに付いて、順廻りに、質問を發する。第一に與へられた質問に答へ損ずると、吊綱帶してゐるやうに、片腕を曲げる。第二を答へ損ずると、他の腕を曲げる。第三を仕損ずると、片足で立ち、第四で、膝をつき、第五で、寝て「死んだ」ことになる。

### 人探し

ある時、『戦争好きなレッド・インディアンの種族が居りました。従つて敵が澤山ゐるので、どこへ行つても、防禦のない時に、不意に他の種族に見付つて、攻撃を受けないやうに、充分こつそりして居らなければなりません。そこで、その種族のたれでも、家を構へる處は、秘密

にして置いて、最も親しい者でも、決して之を告げず、毎日只異つた場所に會合して、互に遇つて、物事を相談するのであります。或日、各の家に歸つた時に、一人の人が、ふと、翌日會合する場所を見付けて見ると、敵の一隊が、最初、そこに行つてゐて、來たら打ちようといふ謀を立ててゐることを發見しました。この人が、どうして、味方に警告すればよいのですか。

この遊技をするには、全隊を次のやうに別けるのであります。

(A) その隠謀を發見した者(一人又は二三人)

(B) 家に歸つた者。

(C) 敵

A組の目的は、敵に見られないやうに、味方を發見して、これを見付けたといふ證據に、根據地に味方を送るのであります。B組は、出来るだけ安全に隠れて、味方が見えて、探す時には判るやうにしてゐるが、敵に見られないやうにして居らなければなりません。報告を受けとつた時は、敵に捕へられないやうに、根據地に達しなければなりません。C組は、隠れてゐる種族や、隠謀を發見した人を捕へなければなりません。手で觸ると、捕へたこととなります。

## 第 八 食

觀察——人跡——追跡法——觀察散步

さてもこれは、藪のおきてなり——天日の如く、古く且つ誠なる——

故に、これを守る狼は榮え、やぶるものは死すべし。

豺は、虎に従ふこともあるべし、併し狼の子よ、汝に口ひげの生えなば、

心せよ、狼は狩人なり——進み行きて、汝の食を求めよ。

ラドヤード・キプリング

これは、豺は、動物の劣等なもので、自分で狩もしないで食を求め、そして、虎が狩に出る時に忍びより、虎の食ひかすを求めるといふことである。

豺は、人間のやくざな者に、よく似てゐる。自分で働いて、生活を求めることもせず、他人の

働いて得た物を、求めて生活して、こそこそ泥坊をする。

併し、狼は、全く違つてゐる。自分で自分の食を狩り求めることは、人手を借らずに、自分の生活を得、この世に自分の途を立てようとする男らしい人のやうな者である。それだから、我が親しい健兒諸君、諸君は、これと同様なことをすることを學んでゐるのであります。

狼が、食を求めるために、動物の狩をする時は、何處に行つたか、嗅ぎつけて、狩をするのであります。

狼と同じな嗅ぐ力をもたない人間は、その足跡をつけて狩をします。そして、健兒にとつては、この追跡法は、狩をするばかりでなく、情報を得るにも、普通行はるゝ方法であります。

處で、ここに、どの幼年健兒でも、雪の日や、泥の日に、自分で出来る、日常の追跡法の短い話があります。

### 雪で出来た新聞紙

どうして、雪で新聞紙が出来ますか。冬になつて来ると、小さな白いフェアリーの一軍が、ニ

ユースを報道する新聞紙を作るに送られます。

雪片は、何百、何千、何百萬、何億と降つて来ますから、フェアリーであります。遂にそれは、地面を覆ひ、地方一面に、白い布を擴げます。

これは、新聞紙であります。敏捷なものなら、誰れでも、その新聞を読むことが出来ます。只見ると、全く無地の、白い雪に見えます。併しよく見ると、小さな點や跡が見える。これが讀めさへしたら、興味あるニュースになるのであります。雪の中を歩いて行つて、何があるか見ませう。



家鴨のやうな水に住む鳥は、大きな扁平な足でよたよた歩き、爪先が押し込んでゐる。

オヤ、これは、何ですか。雀が雪の中に出て来たな。どうして、それが解りますか。藪に住む鳥は、大概兩足で、一足跳びに跳びます。

アトリであつたら、足



鶏は一步一步あるく。

が、もう少し小さかつたらうし、尾が、時々雪に付き、少しすれたやうな跡がつかませう。ツグミであつたら、足が、もう少し大きく、跳ぶ距離が、もう少し離れておませう。

雉や、鶏や、孔雀のやうな、陸地に住む鳥や、もつと大きい鳥ならば、大概、一步足をついて、又、一步と踏んで歩きます。

それから、家鴨や、黄色な家鴨の子や、神経痛のやうな足をして



ゐる鶯鳥のやうに、水に住む鳥ならば、扁平な足で、よた／＼あるき、爪先が押し込んでおます。

これは、何んですか。

雀が此處に止まつてゐて、盗んで来たパンのきれを、つゝいたのだ。パンが大きいので、嘴にくわいて、飛んでゐつてしまつた。

兎が出て来た。雪にある足跡を御覧なさい。



あさりに出た猫

—雪にある足跡から判断すると—それなのに、それが、少しも、そこに残つて居らんし、皆食べる筈もない。それだから、それをもつてゐつてしまつたに相違ない。さうです。御覧なさい。遙か向にパンが落ちてゐます。丁度そこまで、とんで行つた足跡があります。

併し、雀の通つた處を、横切つてゐるのは、何ですか。マア。兎が散歩に出て来たのです。

併し、ちよつと向に、雀の足跡が、急に消えてゐます。飛び去つたのです。

多分、兎が来たので、驚いたのでせうか。さうでありません。その足跡は、兎のつけた足跡の上にあります。さうですから、兎が通つた、暫く後に来たのに相違ありません。その上、兎が来る前に、パンがそこにあつたら、兎が食べてしまつたのでせう。さう思ひませんか。

併し、何んで、雀が、急に跳ぶのを止めて、パンを置いて、



飛び去つたのでせう。  
ア、解りました。

他の足跡があります。前足の處を、後足で踏んで、雪の上には、四つ別々の足跡がある筈なのに、二つしか見えません。こんなにも、氣を付けて歩くのは、何者でせう。

猫です。猫もまた、あさりに出て、雀にだん／＼近かよるに従つて、足跡がだん／＼近くなり、尾をもち／＼振つて、處々の雪をはね散らしてゐます。

けれども、この急な、方向變換は、どういふことでせう。長い後足でもつて、右に半分廻轉して跳び去り、それから、左の方に、大股で駆け出してゐます。オヤ、犬が追つかけて来たからです。そこに足跡が見えます。駆け出して、雪の中に、足を深く突き込み、猫に迫る時に、烈しく跳んで、

雪をけちらしてゐます。

そして、主人のガイルさんが、どんなに怒つたこととせう。犬を呼んで、歩みを止めた處が、ここに見えます。

オ、さうです。それが見えますか。犬の方を狙つて、ステッキを投げたのです。さうすると、



ガイルさん、犬に大層どなりつけてゐる。

可哀さうな犬は、ステッキを衝へて戻つて来て、主人の前に、かしまりました。(ガイルさんの足跡は、ステッキのあつた處までは、行つて居りません。併し、犬の足跡は、そこまで行つて、ガイルさんの處に戻つて来てゐます。そして、ステッキは、もう雪の上にありますからね。)そこで、總ての事は、上首尾に終つて、どれにも、怪我はありませんでした。

ガイルさんは、ステッキを雪の中に、深く突き

込み、犬は爺さんの後に走つて、家に歸つてしまひました。猫は、尾をはね上げて、跳び去りました。雀は、煙突の上に止まつて、轉つて居ります。兎は、乾いた穴の中に、温にねて、安全であります。

その日のニュースは、かういふ風に終りました。

「雪のフェアリーは、どうなつたか。」とお尋ねになりませう。

さうです。雪のフェアリーは地面に落ちると、人のやうに死んでしまひます。太陽が来て、呼び起すまで、白く冷くなつて寝てゐます。それから、溶けてなくなつて了ひます。けれども、精靈は、再び天に登り、大きな白雪となつて、空をかけるのであります。

それから、もつとニュースが、ほしいと思ふと、雪片になつて、地面に降つてまゐります。そして、諸君が、読み方を知つてゐるならば、諸君が、讀めるように、再び新聞紙を擧げてくれます。



犬がステツキを銜へて戻つて来て主人の前にかしこまつてゐる。

### 足跡の讀み方

ザディグは、ベルシャの素晴らしいスカウトでありました。或日、王様の御料の上等な馬が一匹逃げて、見付かりませんでした。ザディグは、森の中をぶらついて居りましたが、王様の家來が、數人やつて来て、逃げた者を見たかと尋ねました。

彼が答へたのは

「たちのよい栗毛馬のことですか。手で十五もある位高くて、尾が三尺五寸位で、金疣の轡をし、銀の蹄鐵を打ち、右の前足が跛で？」

「さうです。何處にゐますか？」

「私は知りません。私が見たものではありません。」

そこで、彼は、馬を盗んだことと思つて、彼を捕縛しました。併し、間もなく、馬が見付かつて、伴れて戻つて來たので、ザディグを一層吟味して見ると、その辯解がかうでした。

「私は森の中の小路で、馬の足跡を見ました。そこを、馬が駆けて通つたことが判りました。



けれども、右の前足の歩幅が、左足よりも狭いので、跛だと思つたのです。蹄の跡を見ると、小さいので、良種の高價な馬の足跡であつたのです。小路の兩側の藪に埃が付いておりました。尾を左右に振つたので、處々に付いてたのです。小路は七尺幅ですから、尾が三尺五寸に相違ないのです。

「途中で、木が一本曲つて、小路にかぶさり、一本の枝は、地面から丁度五尺ありました。この下を通る時に、馬の背が觸つたので、毛が二三本、それに付いておりました。そこで、栗毛で、手で十五の高さに相違ないといふことが判りました。(手の寸法は、四寸ある。)

「馬が駈けて行く時に、足で石を蹴つたので、蹄鐵から銀粉を少し擦り付け、同様に、一箇處では、石の近くの草を一口喰ひ切るために止まつたので、口の側の石に、金粉を少し擦り付けておりました。そこで、金疣の轡を着けてゐるに相違ないといふことが、私に判りました。」

スカウトが、讀んで事柄を知るといふのは、かういふことであります。併し、目玉を大きく開いてゐて、極小さい證跡でも、見逃すことを許さぬのであります。

幼年健兒、忘れてはなりませんぞ。

處で追跡に關する二三の注意があります。幼年健兒には、人跡の追跡だけで結構です。動物の

「追跡法」は、少年健兒になるまで待ちませう。(觀察章の注意二八八頁—二九三頁を見よ。)

### 人跡追跡法

ロンビンソン・クルーソーが、島の海岸に、初めて、家來のフライデーの足跡を見た時に、どんなに驚いたかは覚えておませう。又驚くことには、長く續いてゐる砂原に、足跡が一つしか見えなかつたことです。併し、フライデーの他の足跡は、どうしたかといふ話はありません。それは素足の足跡でした。靴の足跡よりも、もつと興味があります。意味がもつと解るものですから、

つちふまず



趾が離れたのもあれば、付いたのもあり、土ふまずが、狭いのもあれば、大層廣くて、足を平についたといふことが解るのもあります。これから、お湯から出る時には、床についた足跡を御覽なさい。自分の足跡は變に見えるかどうかためして御覽なさい。

インドやアフリカ、又オーストラリヤの土人の追跡者は、足跡で、人を判別することを學びます。併し、完全に近く達するのには、怖ろ

しく時間がかかります。インドの追跡者は、七年位もかゝつて、その仕事を學びます。それですから、諸君の餘暇では、多くをなすことは望まれません。併し、一つの足跡を、他と較べて、どう違ふかを見ることは、面白いと思ひませう。又練習すると、人跡を追跡することが出来ませう。殊に、之の人が、重い靴をはいて、スカウトの心得がない者なら、一層都合がよいのです。さうすると、足を重くつかつて、躓いて歩きます。すると、地面が、いくらかでも柔かいと、足跡を見付けるのが、非常に易いのです。さうすると、男の廣い足跡、女の狭い足跡、子供の小さい足跡とを、區別することが出来ます。併し、時間がかかります。それですから、一二度うまく行かないからとて、止めてはいけません。追跡法は、容易な事ではありません。それに得手になるには、多くの練習と、忍耐とを要します。練習と忍耐とは、何事をなすにも、全く必要なことであります。

柔かい地面を、ローラーで平にしたり、又は、その上を掃いて、練習を始めなさい。それから、その上を、歩いたり、駈けたりして、自分の足跡を付け、歩いたり、駈けたりした足跡の相違を注意するのです。道路を數碼平にして、多くを學ぶことが出来ます。そして、後で、人が通つた

か、馬が通つたか、車が通つたか、どの方向に行つたか、數がいくつか、どんな歩調か、どれが先きで、どれが後かといふことなどを、吟味するのであります。

足跡の特徴を注意して、どこかで見たら、再び認め得るようにするのであります。何でも、自分で注意することを學びなさい。そして、絶えず練習すると、習慣になつて、よいスカウトになります。

狼に鋭敏な眼があります。

狼に鋭敏な鼻があります。

### 狼に口鬚があつて途をさぐる

ほんとうのスカウトは、夜も、晝と同じやうに、作業をしなければならぬのですから、視力にばかりたよつてをりません。勿論、暗い處では、よく見えませんが、他の感覚を用ひなければなりません。聴覺と、嗅覺と、觸覺といふやうなものであります。

私は、一度、暗い森を通つて、敵を攻撃するために、大部隊の兵を指揮しなければなりません

でした。私は、前日そこに行つたものですから、自分の足跡を見付けました。それで、私は進む時に、足跡をさぐつて、ついて行きました。

スカウトは、たれでも、暗い處で作業しなければなりません。それで、私は、幼年健兒は、それを學ぶことを注意します。

毎朝暗い中に起きて、水浴をしたり、冷水磨擦をしたり、齒を磨いたり、体操をしたり、服を着けたり、あかりをつけずに、襟飾を結んだり、髪にブラシをかけたたりすることは、大層よい練習であります。直に、なんでもなく出来るようになります。

又目隠をして、途を探す練習も出来ます。

そこで、他の感覚を用ゐることが、どれほど役に立つかといふことが解りませう。

耳そばだてて音を聞き、方向を知る助けとすることが出来ます。教會の時計が刻むのや、停車場の汽笛の音や、沼澤のシギの鳴き聲などが聞えませう。——こんな事が凡て、見ることが出来ない時には、方向を知る助けになります。

又、嗅覺によつて、厩や果實店、農家の庭を通つたことが解り、こんなことで、道を知ることが

出来ます。

### 狼に鋭敏な鼻がある

エチプトに、年とつたアラビヤ人の案内がりました。全くの盲であります。道を知つてゐて、沙漠でも、沙を嗅いで、通ることが出来ました。

時々沙を握りとつて、これを嗅ぎ、正しい道を通つてゐるかどうかをためして見ました。野營地に來ると、嗅で各野營場を知つてゐました。

或時、彼の仲間の者が、だまかしてやらうと思ひました。そこで、前の野營地から、沙を一袋入れて、持つて來ました。そして、新野營地に付いた時に、その沙をいくらか渡して、之を嗅がして、今とつたばかりだといひました。

盲人は、それを嗅いで、途方にくれたやうでした。又嗅いで見て、何んとも申譯がありません。何か間違をして、又もとの野營地に、お伴れしたのだと云ひました。

彼等は、笑つて、だまかしたのだといふまでは、全く可哀相でありました。

數年前に、我々は、ズールーと戦争をした時に、或夜私は、露營してゐる時に、夜中に、變な嗅がしたので、目をさました。土人の嗅であつたのです。

私は、直ちに、部下を起しましたが、かきつけることが出来ませんでした。といふのは、大抵の者は、煙草を吸ふ者でありました。煙草を吸ふ者は、大概吸はない者のやうに、よくかぐことが出来ません。實際、喫煙すると、嗅覺を害ふばかりでなく、驅ける時息がきれたり、屢々視力を害し、消化を悪くします。

そこで、ほんとうのスカウトは、大抵煙草を吸はないことが解りませう。

處で、私は、敵が、どこか近くにゐることを感じましたので、皆起きてゐました。間もなく、敵が、我々の眠つてゐる處を捕へて、驚かさうと思つて、草の中を、這つて來るのが聞えました。却つて、我々から、一齋射撃をくらつて、驚いて逃げて了ひました。

かくの如く、嗅覺が、諸君に大切だといふことが解りませう。これは、フランスであつたことです。が、もう一つの話があります。

一人の男が、小包を持つて、金持ちの銀行家の宅にやつて來ました。その銀行家が、留守であ



狼をあさりに出かける獲物

つたので、母の人がその小包を受け取りました。その男が、大層高價なものが入つてゐるからといつて、受取證を要求しました。

その婦人は、それを書いて、机によりかゝつてゐる時に、男がナイフを出して、背中を刺しました。妹が駆けて助けに來ると、男が、その女をも刺して、逃げました。

兩人とも、只負傷しただけなので、同人は、以前に、ジャメットといふ名前で、その銀行家を訪問したことがあると證言しました。

警官が、各方面に亘つて、ジャメットを搜索しましたが、成功しませんでした。

けれども、刑事係長は、男の置いて行つた小包を

とつて來ましたが、中には、古い鐵道案内が一冊入つてゐただけで、他に何んにもありませんでした。刑事は、又一つの重要な物を發見しました。——その本に、鞣皮の特別の嗅がついてゐました。

警官は、バリーの近郊のコンテイリの製革所を搜索しました。そして、一工場の上の位置を占めてゐる人が、最近バリーの銀行家の宅に行つて來たといふことが解りました。

そこで、その男が、婦人の前に伴れ出されて、直ちに判つたので、白状しました。

そこで、小さい證據を注意して、あれこれ綴り合せて見る事が、どれほど大切だかといふことが解りませう。

### 狼に鋭敏な耳がある

南阿戦争の時に、私は、山の麓近くに野營をしてゐました。上の方の遠い岩の上に、狒々が、驚いて鳴き聲を立ててゐるのを聞きました。野營には、數百人の兵がゐましたが、多くの者が、その鳴き聲を聞いたやうには思はれませんでした。若し、聞いたとしても、餘り注意を拂つてゐ

るやうではありませんでした。

併し、スカウトには、大變なことでありました。

なぜ猿が、高い崖の處で、急に叫んで、仲間を戒めたのでしたらうか。私は望遠鏡をとりだして、山をよく見ました。

ふと、二三人の頭が、岩の間に見えました。氣を付けて、体をかくしてゐるのですから、ポーア兵は、我々を偵察してゐるのだと私は推察しました。そこで、私は、直ちに、二隊の兵を遣して、後方から山を登らせ、敵を襲うて、之を捕虜にするやうに命じました。

兵は、かくの如くして、私は思つたやうなことが解りました。敵の斥候が、我々の行動を偵察して、動くので猿を驚かしたのでありました。

### 小さな證據を注意せよ

追跡の名人や、スカウトになるには、常に、小さい事に注意する習慣がつかなければなりません。——それから之を記憶することが出來なければなりません。

私が幼年健兒位の年齢であつた時に、私の見た警官は誰れでも、その襟章の番號を注意して、何處で遇つたかを記憶する習慣をつけてをりました。その時に、當番の警官のゐる處に、友達を散歩に伴れて行くのが習慣でありました。「當番」に當つてゐる警官といふのは、行通などを整理して、常に同じ場處にゐる警官で——「巡廻」をして、或方面を歩いてゐる警官のことではありません。

我々が、その警官を、かなり遠くに見た時には、私は、眼に手をかざして、その方向をよく見て、段々に、その番號や、所屬部隊の文字を読み上げました。それから、我々は、その警官の處を通り過ぎると、私の友人は、かくも正確に讀むからには、私は驚くべき視力をもつてゐると思つたのでした。

### 風見と銅像

町にある風見を見て、悉く知るといふことは、悪い事ではない。私は、小さい手張を持つてゐて、私の見た風見の繪を描いて置きました。是等を見て、注意するといふ人は、極尠なうござい

ます。

ロンドンの王立交換所の頂には、風見に、大きい金のバッタがあります。毎日何千人といふ人が、そこを通ることと思ひますが、之を注意した人は尠いのであります。

スカウトの名人や、幼年健兒がするやうに、これに目を付ける者がありません。

若し、マンチェスターの少年健兒が、聖ジョージと龍の像が、何處にあるかと問はれたならば、多分直ちに、ピカディリーのヴィクトリア女王の銅像の上に、その小像があるといふのであります。

大手品師のハウディンは、一目で、多くの小さな品物を見て、之を記憶するといふ藝を澤山したものです。彼は最初子供の時分に、一寸店頭を見て、それから、後を向いて、その仲間に、店頭で見た色々の品物を、悉くいつたのであります。

幼年健兒には、非常によい練習であります。やつてごらん下さい。

又、自動車を通る時に、その番號を讀んで、之を見た時を注意することが出来ます。それから、之を記憶した後に、之を書き留めて置くのであります。よい練習であります。そして、何時か彼

に立つことがありませう。時としては、自動車は、人を轢き倒して、逃げた時などには、警察が「搜索募集」などといふことがありますから。若し、自動車の番號が警察から發表された時は、かやうな場處で、かやうな時に、その自動車を見たと報告することが出来ませう。

### 鳥の巢

若し、鳥の習慣や、巢の造り方を觀察しようと思ふならば、小さい形跡に注意して、非常に鋭敏な眼をしてをらなければなりません。

勿論、少年健兒や、幼年健兒は、鳥の巢を見付けようと思ひます。——小さい卵を盗まうといふ考からでなく、鳥がどうして巢を造るか、色々の鳥が、どんな卵を産むか、どうして養つて、若い雛を育てるかを見るためであります。それには、忍びよつて、之を見ることが出来るのであります。

巢を引きぬいて、卵をとるのは、やくざ者に過ぎないのであります。少年健兒や、幼年健兒は、巢を保護することに最善を盡します。

### 忍び寄り

鳥や花の自然研究をするのには、春は、一年中の、最面白い時であります。

燕や、他の鳥は、英國で夏を過すために、遠く海を越えて來始めます。眼や耳を用ひない普通の者は、幼年健兒が、森の邊や、垣根を逍遙してゐる楽しみ半分も解らないでせう。

鋭敏な耳で、ヤマウグヒスや、コムシクヒが、小さい落ち付きのない、鶯色をした者が、鋭い鳴き聲をしてゐるのを發見させよう。そして、之を見付けて、枝から、枝へと、快活に、忙しく、躍んで行くのについて行くのには、眼がよくなければなりません。

ツグミの巢を發見して、ツグミの親鳥が、卵を抱いてゐるのを見るのも面白い。ツグミにやさしくしてやつて、いたづらをしないといふことが解れば、よくならすことも出来ます。

見た鳥を凡て、手張にかいて置き、初めて、見たり、聞いたりした目附をつけるのも、面白いことでもあります。それから、翌年になつて、再び、その目附を比較したり、他の者の鳴き聲を比較することも出来ます。

カッコウを初めて聞いた日や、その年になつて、初めてツバメや、ヒバリや、ゴジフカラを見た日附をかきとつて置きなさい。

鳥や卵の繪がかけるならば、それで本を作るのも、一層興味のあることであります。

又、発見した巢の一覽表を作るのも、とつて置くのによいことであります。

### 巢を発見すること

勿論、大部藪の中を捜した後に、巢を見付けることが出来ます。併し、最も遊技的方法は、鳥を見て居つて、何處に行くか歸るかを見ることであります。實際、多くの野禽を捜すには、何處に巢があるか捜し出すのは、唯一の方法であります。或場合には、可成り困難な仕事であります。

例へば、千鳥を例にして見る。又は、最普通のヒバリでもよい。地面から飛び上つて、空中に鳴いて行くのが見える。併し、上つた處に行つて見ると、そこに巢が見付かりません。巢を出て、或距離の間、地面を歩いてから、飛び上るのは、常であります。そして、再び、下つて來ると、

巢の處でなく、それから、或距離の處に着陸します。ヒバリは、ヤマウグヒスのやうに、地面に巢を造ります。

大きいヤマガラは、木の穴に巢を造ります。又、ポンプの頸や、水瓶のやうな非常に變な處に、巢を造ることも、珍らしくありません。

ゴジフカラは、常に、木の穴の中に、巢を造ります。

ホワイトスロートは、茨や、イラクサの下の方に、しまりのない、さゝやかな巢を造ります。併し、他の鳥とは違つて、何年も續けて、同じ期節に、同じ巢に歸つて來ます。そこで、一度、その巢を見付ければ、翌年も亦、その歸つて來るのを待つてゐることが出来ます。

オータワグテールもまた、同じ處に歸つて來て、巢を造ることが屢々であります。

野禽のあるものは、甚だ臆病で、巢の近くで見られるのを怖れます。——その中には、二つまで數へ上げることが出来ます！

人が巢の近くに來ると、飛び去つて、人が去るまで歸つて來ません。こんな場合に、巢を見付けるのに一番よい方法は、三人一緒に行つて、忍び寄ることです。鳥が飛び去つたら、二人が歩



いて行つて、三番目の人は氣を付けてかくれてゐるのです。さうすると、鳥の方では、敵が皆去つたと思つて、自分の巢に戻つて來ます。その時に番をしてゐる者は、鳥が止つた處を見ることが出來ます。

「ノーザン・トレイルズ」の中に、ダブリュー・チエー・ロングは、ニューフォンドランドで、若い狼共が、荒野の中で、どうして自分共の氣を付けるかといふことを書いて居ります。彼等は、幼年健兒がするやうに、毎日、禽獸の習性を學ぶために、之を見ることを學びます。

併し子供の目的は、彼等のことをよく知つて、その動作に、親しみのある興味を得ることでありませぬけれども、若い狼は、どうしたならば、一番上手に狩をするか、どうしたならば、食事にするために、之を捕へるかを知るために、之をするのであります。

若い狼共が、地上に餌をあさつてゐる千鳥の一群を圍み、朽木のやうに見えるまで、なびいてゐる灰色の草の中に灰色の體をひそめて、だん／＼近か寄る時には、その狩りは、僅少で、間が離れてゐるけれども、非常に緊張したものであります。

それから、鴨が、池や水溜に來ると、若い狼共が、彼等の好奇心をそ／＼つて、馬鹿な鳥をおび

くことを學びます。

狼は水邊の草の中にかくれ、その一匹は、開けた岸に出て行つて、戯れたり、轉がつたりしてゐる中に、鴨は、これを見て、頸をのばし、これまで見たことのない變な物を見て、驚いてがや／＼鳴き出します。

鴨は、元來臆病で、山だしであります。新しい物は何でも、つゝいて見なければなりません。靜かにして見たり、一緒に騒いで見たりして、水の上を泳いでゐる鴨の群は方向を變じたり、散開したり、再び集會したりして、遂に岸の方に泳いで行き、各頸を捧のやうに、眞直にのばし、何があるかを、よく見ようとします。

彼等は近くに来て、益々近か寄つて來ると、突然狼が草から突撃を加へます。さうすると鴨が皆怖しい聲を立て、まつさかさまに、水に潜ります。

併し、何時でも、一羽か二羽位は、狼にとられて、好奇心の代價を拂ひます。

### 遊技と練習

店頭のぞき。一分間店頭をのぞいて、そこで見た品物や、代價を出來るだけ多く記憶する練習であります。

キムズ・ゲーム。十五か二十ばかりの小さい品物や、小間物をテーブルの上に置いて、布をかきます。幼年健兒はその周圍に立つてゐます。布を一分間とつて、再びかけます。各健兒は、記憶し得るだけ多く書きつけます。最も多いのが勝ちになります。

追跡遊技。一人の幼年健兒は、跡つけ棒をもつて出かけます。跡つけ棒は、ココアの圓いあき罐を、棒のさきに釘で打ち付けた棒であります。この棒をもつて、走る通りに、道路や小路の土の上に、圓い跡をつけて行くのであります。その隊は、十分後について行くのであります。

嗅かぎ。紙袋を澤山、二歩の間隔で、一列に並べます。各の袋には、コーヒ、タバコ、ネギ、ナメシガワ、バラの葉、ミカンの皮などの、各種の嗅がする物を入れて置きます。健兒は、各の物を、五秒間かぎます。これをやつた後に、皆の物を書きつけて、順序正しく、審判者にいふのであります。

一人の健兒は、葱を半分にして、通る時に、木、塀、門、石、電信柱、何でもの上に、これを

すり付けます。その後から、全隊が、駆け歩で、すり付けた葱の嗅をかいで、ついて行くのであります。

聴きかた。審判者は、目隠をして立つてゐます。各健兒は、各方面から這つて來るのを聞きつけるのであります。若し一人の健兒が、這つて來て、指される前に、盲に觸れば、この健兒は、勝ちとなるといふやうなことであります。

### 観 察 散 歩

一班を、町又は田舎に、散歩につれ出し、途中で見た物に點數をつけるのであります。

例へば、

跛 の 馬 八點。

カササギ 三點。

七羽の雞 三點。

卵形の小石 三點。

櫛 一點。

赤い衣裳 一點。

風見 一點。

其他。

各健兒は、點數をつける物を見たら、小聲で隊長に報告して、相當な點數を名前につけるのであります。

散歩の終りに、點數を合計して、勝つたものを讀み上げるのであります。

### 愛養物

動物を愛護する初歩で、自然研究や、觀察を獎勵するには、初めは、鼠や、天竺鼠であつても、子供に、愛養物を飼はせることであります。かゝる仕事は、子供に、飼養の方法と時間、運動、清潔と、一般的には、その習性を觀察し、同情を増すことを教へる効果を得られます。

## 第九 食

ナイヤガラ碎氷事件——結案とその方法——船のリー——ピクトリヤ勳章を得たジャック・コンウニル——幼年健兒の集窟。

### ナイヤガラの碎氷事件

私は近頃、カナダに居りました時に、ナイヤガラ瀑布で、怖ろしい出来事を見ました。男とその妻君と、十七歳になる少年と三人で、流れる河に、氷がはつて橋になつた處を渡つてみました。その時に、急に龜裂が出来て、一部分は破れました。男と妻とは、一塊の浮氷に乗つて、大塊を離れて、靜かに浮び去り、少年は、他の浮氷に乗つてゐました。

その邊一面の河水は、同じ浮氷が一杯で、互に擦れあつたり、突き當つたりして、泳ぐことが出来ず、舟があつても、漕ぎつけることが出来ませんでした。そこで、その邊で迂廻してゐる流れに、身をまかせただけでした。そして、だん／＼に、靜かに、間遠なく、一哩はなれた怖ろし

い瀑布に向つて、流れて行くのでありました。

岸にゐた人々は、彼等の危険な事を、しかも何千人も集つて見てゐました。併し、一人として、彼等を助ける手段を知らないやうでした。河の流れて行く方には、橋が二つあつて、彼等は、その下を通ります。そしてその橋は、瀑布の丁度前に架つてゐるのであります。

この可哀相な者が、その邊まで浮んで来るのには、一時間もありません。橋の上で人々が綱を持つて来て、(橋は水面から百六十呎ありました。)流れて行く人の途中に吊すために下げました。彼等はやつて来ました時に、少年は、綱を握りました。手傳をしようとする人は、彼を曳き上げようとなりました。併し、或距離に曳き上げた時に、可哀相に、もはや取り付いてゐることが出来ないうで、氷水の中に落ちて、再度と見えなくなりました。

他の浮氷にゐた男も、綱を握つて、弱つてゐる妻に結びつけて、何とかして助けようとなりました。處が流れが突き當つてゐるので、手が凍えて、手から滑つて、綱を結び害ねました。そして、二三秒たつと、夫妻兩人共、水中に没はれて、渦巻いてゐる瀑に、命をなくしました。

### スカウトの爲すべきこと

事があつた後にかしこくなるのは易いことだが、この災難を究めて置く値打ちがあります。諸君がそこに居て、かゝる場合に、手段を考へて、之を遂行するのは、幼年健兒の義務であることを知つたならば、諸君はどういふことをしたのでせう。

カナダの隊長の一人は、この事件後間もなく、汽車でそこを通つた時に、その仲間の旅行家が、その事を話してゐたと私にいつたことでした。彼は少年團に關係があることを知らないものだから、その中の一人がいひました。

「エイ、少年健兒が誰かそこにゐたら、その可哀相な人々を、助ける手段があつたのだらうと私は思ふ。」

世間では、かういふ風に、諸君を思つてゐるのだといふことが解りませう。第一の事は、諸君に期待されてゐることをする「準備」をすることにあります。

勿論、私は前に述べたやうに、事件の後に、賢くなることは易いことでもあります。併し、再び、



このスケッチは碎氷事件のあつた處を示す。

かういふことがあつて、諸君が之を見たら、何をなすかといふことを考へて置くのは有用なことで、興味のあることでありませう。私は、その地點を示すために、スケッチを描きました。

### 結 索 法

この事件で注意すべきことが一つあります。總ての少年健兒がしてゐるやうに、結索法の出来るといふ價値であります。『こんな簡単な事を學んで、何かよいことがあるか。』と人々が屢思ふことであります。處で、こゝに、それを知つてゐると、三人を救ひ得ることがあつたのです。

綱が橋から下された時に、助けられる人が巻き付いたり、脚や腕を通すために、綱で輪を一つ



輪の結は非常に困難である。大きな水夫もまた片手結を作るために容易だと思つて、解くことが出来なかつた。

か二つ作つて置くべきでありました。實際、綱には輪がありませんでした。人々が、舫結も片手結も知らなかつたものですから、彼等を救ふことが出来ませんでした。

次の四つは、各幼年健兒が、第一星章を得る前に、

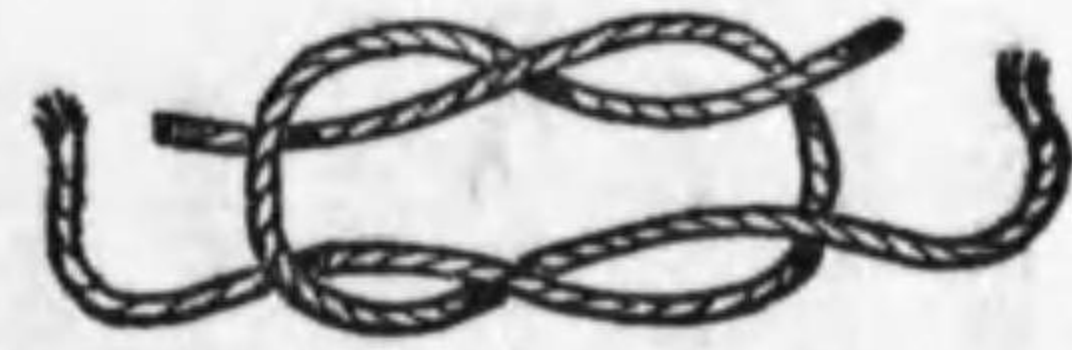
結ぶことが出来なければならん、最も有用な結索であります。

各幼年健兒は、索をよく結ぶことが出来なければなりません。

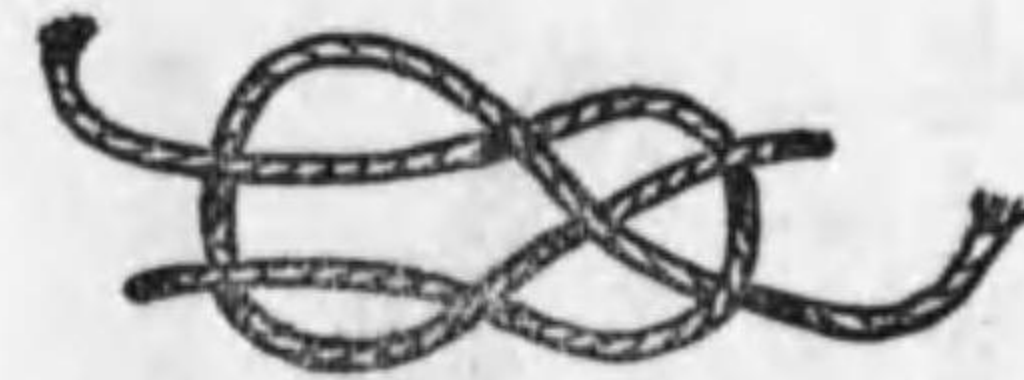
普通の子供は、結索法には何と不器用です！彼等は、糸や綱をもつらせることをしてゐます。大抵は再び解くことも出来なければ、締めて、しつかりしやうとすれば、ゆるんだり、獨りで解けたりします！

それでは、水夫や、橋を造るのには、少しも役に立ちません。

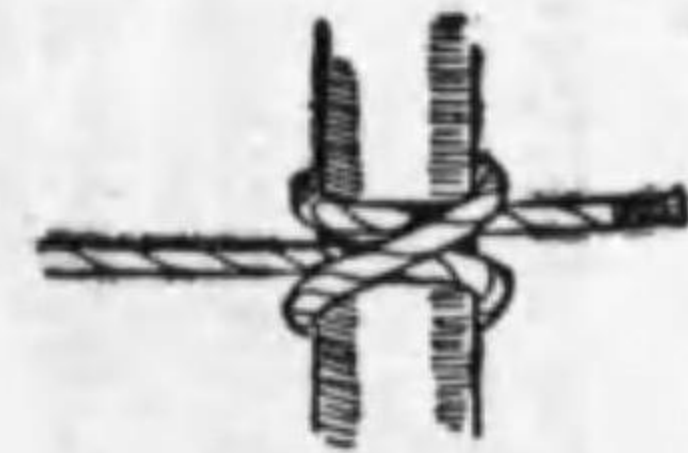
結索を、習ふのは、大層易いことであります。之を知つたら、人に、どうして結ぶかを教へることが出来ます。



本結は小包か綱帯を結ぶためであります。



一重接は二本の索を結び又は輪に索を結ぶためであります。



巻結は索の一端を何かに巻いて結へるのであります。



紡結は索で作った輪ですべりもせず、又同時にかみ會ひませんから、解け易いのであります。これは締める前のものであります。

こゝに、最も有用なものが二三あります。これを習ふ時は、綱や索——糸でなく——を用ひなさい。自分で結索がうまいと思つたら、暗い處か、目隠をしてやつて見るのですよ！さうすると、多分、思つてゐる程上手でないといふことが判りませう。併し、綱を結ぶ時は、何時でも、明い時にするものだと思つてはいけません。天幕は、夜分に吹き倒されるかも知れませんし、馬が逃げるかも知れません。又、帆を縮めたいところがあるかも知れません。暗い時に、

綱を結びたい場合が澤山ありませう。さういふ時には、前に習つてよかつたといふことが解りませう。

それから、結索に加ふるに、幼年健兒が海洋健兒になつた時に、準備となる小さな事を、習つて置くことが澤山あります。

併し、最も大切なことは、泳を習ふこととあります。誰が海洋健兒の訓練を習ひたくても、泳が出来なければ許されませんから、泳ぐことが出来ない者は「子山羊」に過ぎない者で、ほんとうの子供ではありません。

それですから、健兒諸君は、自分で是等の事を覚えてこらんなさい。

### ホブラー

「ホブラー」とは何か、ご存じですか。

我々の海岸のエギリス海峡に近くやつてくる船の水先案内をして生活してゐる人であります。普通の水先案内は、高等な訓練を受けた人で、嚴重な試験を受けて、水先案内になるのを許さ

れるのであります。大きな船が海岸近くに來れば、暗礁や沙洲の間を案内するために、水先案内を雇はなければなりません。

併し、ホブラーは、海岸の危険に就いては、凡て自分で習つた人でありませぬ。そして、どんな天候の時でも、小さな帆船に乗つて、特に濃霧や、強風の悪い天候の時には、ほんとうの水先案内が、援助を要する船を見付けることの出来ない時に、出かけて行くのであります。

その時にホブラーはやつて來て、ほんとうの水先案内には出来ない小額の料金を、仕事をして、港に案内するのであります。

又、沙洲や、暗礁の危険に陥つてゐる船には、何時でも直ぐ手助をします。全くクロトビのやうに、動物が平原で殺されると、直ぐどこからとなく出て來ます。

ホブラーは、直ぐ手助をして、積荷を救ふために、大きな報酬を得ます。——又第一に



ホブラー

災難にあつてゐる人の命を救ふために、一生懸命に盡さなかつたならば「船賊」といはれる疑があるでせう。處が、ホブラーが勇敢な救助をした例が、非常に多いのであります。

それ故に、ホブラーは、勇敢な頑丈な水夫であつて、大抵は、寒い雨風の最も悪いあらしの時に、小さな船に乗つて、適當な食事も、睡眠もせず海に出て居らなければなりません。それで、濃霧の時でさへ、海の事は、目標とするものがなくても、どこでも知つてゐて、生活の爲めに骨折つて働き、命を賭して、災難にあつてゐる人を助けます。彼は、海の眞の健兒であります。

### 遠洋漁師

英國の海洋健兒の他の立派な模範は、遠洋漁師であります。彼は、遠くあれてゐる北海の漁場に出かけて、くらしを立てるのであります。海には大丈夫だが、小さな船に乗つて、常に危険に曝されて、寒くもあり、困難な生活であります。

併し、我々の水夫を、かくも頑丈な頼みになる人としたのは、この困難な荒らい生活をするからであります。貧弱な青白い煙草をふかしてゐる「都の者」とは、大層遠つて居ります。かうい

ふ連中は、電車や、地下鐵道に乗る外に、危険に面することがないのであります。

平時には、人知れず仕事をして居りますが、戦時には快活に艦隊の任務に就いて、水雷を沿海から掃海するのは、是等のホブラーや、遠洋漁師であります。是等の水雷は、我が艦船を爆破するために、敵の浮設した、鐵の浮いてゐる爆彈であります。併し、掃海作業をする者はその危険な任務を、巧みに、上手にして、何百といふ水雷をとり上げ、我が艦船を救つたのであります。

### 英國の水夫

それから、英國から、世界の隅々まで航海する、何千といふ汽船や帆船、定期航海船や、軍隊運送船に乗つてゐる水夫があります。我々は、往來では多く見ませんが、新聞では、時々聞くこととあります。

海上での難破船や、船火事や、衝突、浸水等があります。併し、災難の殆んど大抵の場合に於いて、水夫側の勇敢なる行爲や、危険に直面して、命令に従つた、善い記事を読むのであります。

### 我が水兵

我々は、時々、我が海軍の水兵を、往來で見ることがあります。立派な人達で、丈夫な愉快な人達で、彼等に頼むと、何でもすることが出来る人達であります。

彼等の勇敢と紀律とが、よく知られて居りますが、海戦で、大甲鐵艦の底で、働いてゐる者に二倍の勇氣を要することを考へたことがありますか。

鐵の甲板の下の火藥庫で任務をしたり、又は、タービン機關に付いてゐたり、又は、わなの中の鼠のやうに閉ぢこもつて、窯に付いたりして、下で任務をしてゐるのもあり、づつと上では、彼等の兄弟分の水兵が、大砲を發射して、緊張してゐるのもあり、周圍を見廻はしてゐる者もあ  
ります。

### 『競技をする』』

ベレスフォード卿は、曾つて、私を、その軍艦に案内したことを記憶して居ります。艦底の附



近の小さい船艙で、防水扉が水兵を閉ぢ込めて、船の沈没の時には逃げられないやうな處を、我々は這つて歩いてゐる時に、卿は申しました。

「ここで作業をして、面白いこともなく、名譽なこともなく、人の見ない任務をしてゐる者は、勇敢な水兵であります。併し、かういふ水兵がなくては、船は運轉もせず戦争にも勝てません。」併し、是等の人々は、我が國の各人が、あつてほしい處のものであります。見られもせず、注意もされない處で自分の任務を盡し、只自分の義務なるが故に、面白いことも、名譽なことも豫期せず、その義務を盡すのであります。

私は、私の學校時代に、フットボールをしたものであります。そして、長い間、ゴールキーパーでありました。

處で、私は、是等の海軍の機關手や、火夫のやうに感じました。私は、飛び廻つて、絶えずボールをとり、觀衆の喝采してゐる間に、ボールを持つて突進したのであります。ところが、私は、ゴールの處で、ふるひて、見られもせず、獨で立つてゐなければなりませんでした。

それでも、味方の後方を過ぎて、敵が攻撃を加へる時には、競技の成敗は、見られずに任務を

してゐる者にかかつてゐるのであります。それは、ゴールキーパーでありました。

健兒諸君、それを忘れてはなりません。面白くなくても、又他人に見られないでも、自分の義務を盡しなさい。

一層、その任務に當るのです。「競技」をしてゐるので、自分の名譽や、働きのためでなく、味方の勝利を得るためであります。

### ビクトリヤ勲章を得たジャック・コンウエル

大戦中に、大艦隊や、巡洋艦隊の艦上で、勤務をした諸君の兄弟のスカウトは何百人もありました。彼等の艦の長官、將校は、手紙を私によこして、その表はした、紀律のよいことや、精神の立派なことを告げたのであります。

その將校の數人は、海軍の練習艦から來るものよりも、スカウトであつた子供の方を好きだと、私にいつたのであります。なぜならば、常に世話をやいて、怠けないやうに、人が付いて居らないでも、その任務に信用が出来るからだといふことであります。スカウトは、どんなことが

あつても、その義務を盡すことを信用することが出来ます。

命にかゝることもあります。ジャック・コンウェルは、それでありました。

千九百十六年六月、ジャットランドの大海戦に於いて、チェスター號の甲板で、一砲門の任務に就いて居りました。その受持ちの砲手は、皆打ち倒されて、一人だけになりました。大抵の者ならば、一人では、砲を操縦することが出来なくなつたら、逃げて、かくれてしまつたのでしたらうが、コンウェルは、重傷を受けても、命令がある場合に當るために、そこに立つて居りました。彼は、あたりに戦友が斃れたり、死にかゝつてをりましたが、痛みと、苦しさを忍んで、任務に就いてをりました。後で彼は、負傷のために戦死しましたが、立派に義務を遂行して、スカウトは、例へ死んでも、「やり通す」といふ信用が出来ることを示しました。

幼年健兒でさへ、小さいから、英雄になれないといふことがありません。ここに、新聞に出た二例があります。『幼年健兒隊が、だんだん強壯になつて、英國では、その階級に屬する最も若い健兒が、人命救助の技能に對して、帝國人命救助會の證明書を得てゐる者があります。その賞状は又、多くの少年健兒が與へられて居ります。』

『第九グラスコー隊に所屬する幼年健兒は、その隊の一人の行爲によつて、よい例を得ました。ウォールター・ピトケシレーは、その弟を救うて、命を失ひました。』

四月廿九日に、十歳になるピトケシレーと、その弟が、水が澤山溜つた石切場の近くで遊んでをりました。その時に、弟は水に溺れたのでありました。ウォールターは、直ちに飛び込んで、救助に力めました。そして、弟を岸につれて來ましたが、自分は疲れ果て、また水に落ちて、溺死してしまいました。』

### 幼年健兒の巢窟

私は曾つて、狼がどんな處にすんでゐるかを見たいものだと思つて、狼の巢窟に這つて入つたことがあります。それは、乾いた崖に、突き出てゐる岩の下の、小さい穴でありました。その穴は、一部分は、自然のまゝで、一部分は、狼が掘つたのでありました。

一度、内部に入ると、天氣が悪くても、他からは見えす、他の大きな動物から攻撃されても、狼が、大丈夫にかくれてをられました。それで、人には、一人で、やつと這つて入られるだけで、

非常に小さくありました。

・ラドヤード・キプリングが書いたジャングル・ブックにある、狼の穴には似てをりませんでした。それには、虎が、狼が助けて置いた少年のモーグリーを捕へるために、来たとでてをります。

狼や、子供は、穴の中では安全でありましたが、入口は大層小さいで、虎は入ることが出来ず、只外から怒つて、睨めつけるだけでありました。

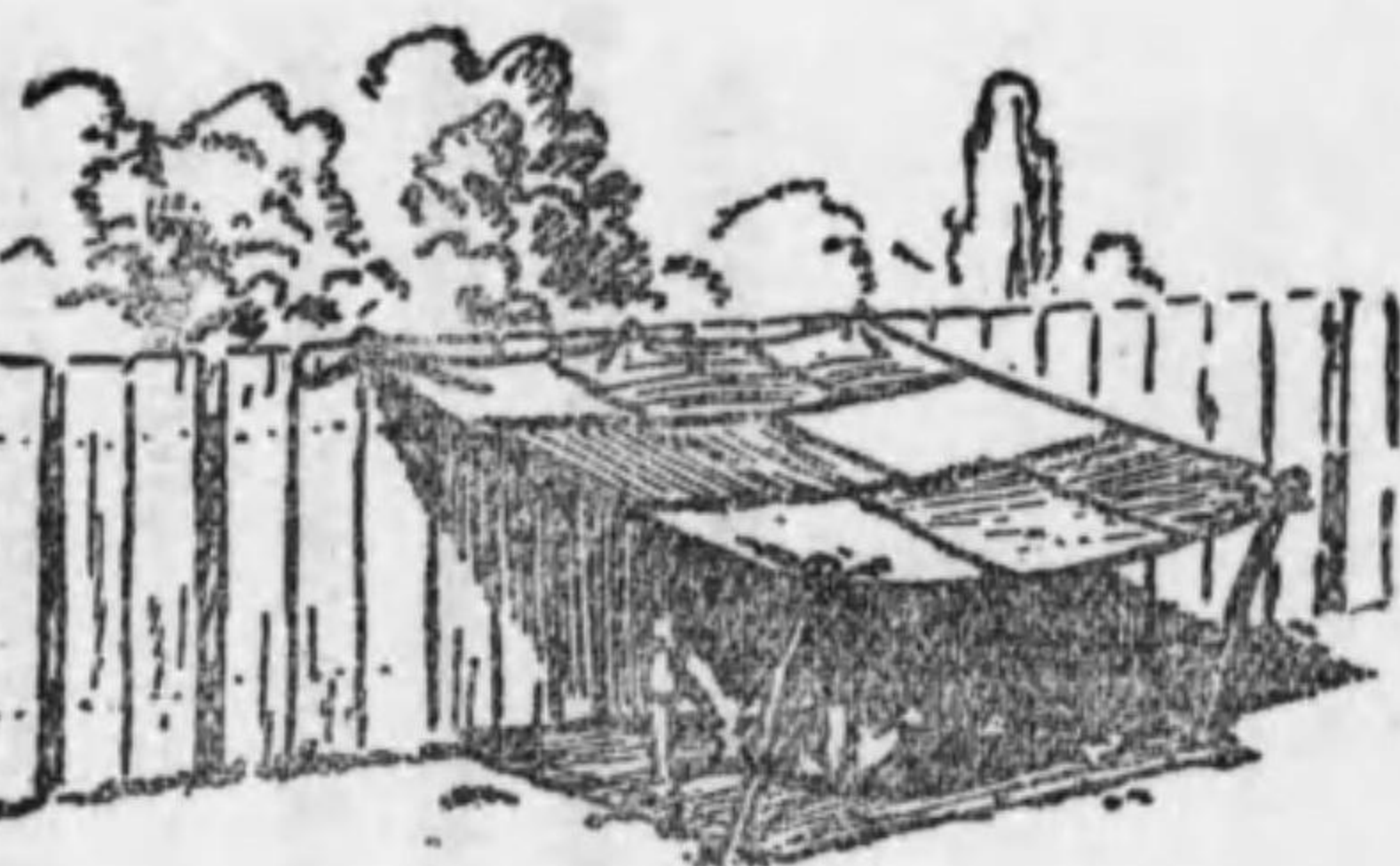
私の見た狼の穴は、巢窟の後側に突き出た岩があつて、この岩の後は、明かに、若い狼が掘つた、第二の小さな穴があつたのです。かういふ風にして、彼等は、自分共の小さな内をもつてをつたのであります。

處で、これは、幼年健兒には範例になります。諸君は、森や、野原に出て生活する時には、自分共で、乾いた、心地のよい内を作らなければなりません。自分でかくれがを作るのは、出来合の天幕を買ふよりも、もつと面白いことでもあります。

諸君は、自分の庭で、それを作つて、手始めにすることが出来ます。

### 巢窟の作り方

作らうとするかくれがの種類は、作らうとする材料次第であります。



古い袋で、非常に簡単なものが出来ます。これを糸でつぎ合せて、大きい一枚の布が出来ます。一端を塀や垣にしつかり結び付けて、他の端を、一本の棒や、ステッキで張ると立派な巢窟が出来て、太陽で大層あつい時は、その中に入つて、各種の遊技をすることが出来ます。又、その布に、狼や、野獸を描いて、飾りにすることが出来ます。併し、夜を過すのには役に立ちません。雨の入るのを防ぐことが出来ませんか。併し、大きくなつて、少年健兒になると、野外で眠るのに、色々なことをする事が出来て、それが非常に面白いのであります。

私は、ほんとうの狼の巢は、大層心地よい穴だと申しました。その通りです。——人ではなく、狼にとつては。

穴は、大抵、しめつて、暗くて、「土だらけ」であります。それ故に、衛生に適しません。初心の者は、自分で野營をするために、穴を掘ります。併し、眞のスカウトは、そんな事をしません。かゝる場處にねると、直ぐ病氣にかゝることを知つてゐます。

又、或少年健兒は、穴を掘つてゐる時に、崖が落ちて死んだことがあります。

## 第十 食

大きく、丈夫になる方法——血液——保健食物——日々の便通法——新鮮なる空氣——體操——細跳び  
本積み、蛙跳び、及でんぐり返し（寄稿）——輪廻し等——鼻の呼吸——爪とその注意——齒とその注  
意——足

## バンタム

我が陸軍に、大層小さな人々——餘り小さいので、普通の聯隊に入れられない——の一隊がありました。「バンタム」と呼ばれて居りました。人々は、最初、餘り小さいので笑つてをりました。併し、戦争すると、他の人に劣らぬ程旨いといふことが、直ぐ判りました。小さい人は、大きい心と、内には勇氣とが澤山あります。

我がグーアカ——我がインド陸軍の小さな武士——は、これを示したのであります。彼等は立派な者で、少年健兒によく似た服装をしてをります。それで、その一人に遇つた時には、最初



グーアカー

は、太陽に「やけすぎた」健兒だと思はれませう。

それから、我々の友人の日本人がおります。彼等は、大層小さくありますが、大層勇敢で、強健であります。グーアカーのやうに、彼等は、立派な軍人になります。

このやうに、幼年健兒は、小さくありませんけれども、自分でさうならうと思ひば、これに劣らぬやうに、勇敢に、強健な大きい少年になることが出来ます。

日本人は、食べ物に、大層氣を付けて、自分で強健になるやうにし、澤山水浴をして、自分を非常に清潔にし、毎日身體の運動をして、非常に強壯にします。そして、笑つて、元氣よくしてゐて、自分を健全にしてをります。

### 大きくなる方法

かくの如く、幼年健兒も、望むならば、これと同様なことをすることが出来ます。しかも、どの幼年健兒でも、自分を、強壯、健全にすることを欲すると、私は確信するのであります。併し、健兒は又、日本人や、グーアカーがすることが出来る以上のことが出来ます。なぜなれば、健兒は、やらうとすれば、自分を丈夫にすることができればかりでなく、大きくなるやうにすることが出来ます。

私は、諸君が、自分を大きく、強壯に、健全にすることが出来る二三のものを話します。

### よい血液と、その多量

先づ第一の事は、内部の血液を、強壯に、健全にすることです。諸君の体内の血液は、汽關の蒸気であります。それは、蒸汽力の如何に従つて、よくも、悪くもまわります。併し又、諸君の血液は、水の植物に於ける如く、體の食物であります。それが體を大きくさせるのであり

ます。それが、充分でないと、小さく弱くなつてゐて、萎れて死ぬことが往々あります。それが、私の内部にあつて、凡て私を作るならば、どうしたならばよい血液と、量を多く得られませう。

### 保 健 食 物

處で、それは、諸君が口からとる食物から作られ、それを澤山得るためには、血液を作るのに、よい食物をとらなければなりません。酸のあるドロップや菓子には、味は結構でありますけれども、何もよいこともありませんが、肉や、野菜や、パンは、健康によいのであります。

それは、血液を多量に得る方法であります。併し、諸君は又、これを健康によくしなければなりません。これは又、自分で努めることが出来るのであつて、誰も、自分の代りにしてくれることが出来るものではありません。

### 日 々の 便 通

食物をとつて、之をよく咀嚼し、之を嚥下すると、それは胃に入つて行つて、そのよい部分は、血液に行き、無用の部分は、他の口から出て了ひます。この無用な部分を、餘り長く内部に停滞させると、——即ち一日以上——血液を悪くするやうになり、そして、善い食物をとつても、効果をなくするやうになります。

そこで、諸君は、大層注意して、少くとも、一日に一回は、規則正しく、食物の有害な部分を、排泄するに力めなければなりません。それは、健全になる秘訣であります。

### 新鮮な空気と、深呼吸

それから、新鮮な空気を吸収して、血液を丈夫にすることが出来ます。血液は空気を要し、鼻から呼吸する空気をいくらか入れて、體の中程にある肺臓に通して置くのであります。そこで、新鮮な善い空気を、出来るだけ多量に、充分深呼吸をして、血液をよくするのであります。嗅のする室に閉ぢこもつてゐて、むつとする古い空気をとらずに、屋外の冷い新しい空気を多量にとるのであります。

このためには、内にある息を悉く吐き出し、それから胸を充分張つて、胸隔が空気を入れられるだけ多く、鼻から吸ひ込むのであります。これを毎日時々なさい——新鮮な空気の處にゐる時は——そのみは、自分を丈夫に、大きくさせるやうにします。

### 體操

併し又、善い食物と新鮮な空気の外に、血液のためになる、もう一つの、最も重要なことがあります。それは體操をすることでありませう。

私はお話ししたやうに、血液は、水の植物に於けるが如く、體と、その流れて行く體の各部を養ひます。血液は何時でも、身體各部に達しやうとしてをります——併し、一部にさうするやうにすると、益早く大きくなります。ランニングをする者や、フットボール競技者の、脚部が非常に丈夫なのは、かういふ譯であります。なぜなれば脚部を絶えず練習すると、血液が益充分流れて行つて、そして、太さも、力も、かくの如くして増大します。

インドに行くと、土人が、腕を頭の上にあげてゐるのが、時々見えます。神の前で、何か悪い

事をした罰に、自分で之をしてゐます。そして、生きてゐる間は、腕を上げてゐて、決して用ひないといふことを誓ひます。さうすると、運動の缺乏のために、血液は、適當に順環しません。——植物なら水をかけないので。——そして、腕は、だん／＼細くなつて、骨に皮がかぶさつただけで、遂に役に立たなくなつて、益々萎れてしまひます。

それですから、諸君は、大きく、丈夫に生長しやうと思ふならば、身體の各部の運動を力めなさい。諸君は、次に述べることで、之をすることが出来ます。

### 繩跳び

それは、後方に繩跳びをすることでありませう。前方に繩跳びをする子供は、爪先は内側になり、肩は突き出て、自分には、餘り爲めにならず、害になるかも知れません。

繩を求めなさい。——木が端に付いた、綺麗な高價なのはありませんが、餘り、細くて、軽くてはいけません。——やつてごらんなさい。少しも繩跳びを習つたことがなければ、最初は、繩を廻してくれるやうに、友人を二人たのみなさい。そして、腦をよく働かせて、適當な時に、適當

に跳ぶことを習ひなさい。直立して、肩を引き、爪先を繩に一寸付けて立つ。用意。よろしい。そら頭の上になつた。今度は跳ぶのです。踵をつけて。爪先を外側にして。地に付く時は、膝を少しく外側に曲げるのです。大きく跳んだら、其間は、小さく跳び——繩が頭の上に来たら——さうすると、確りしてゐて、調子がとれます。

今度は、自分で繩を廻してごらんなさい。それを自分の前にして出かけるのです。何時でも背中を真直にして。象のやうに、踵を地面につけてはいけません。——山羊のやうに(出来るなら)敏捷にすることを練習して、爪先で跳ぶのに、少しもドシンと音を立ててはいけません。第一星章を得るには、後方に、一人で、三十回跳ばなければなりません。それですから、氣を付けて、内で練習しなさい。

或る子供等は、繩跳びは、女らしいと思ふかも知れません。併し、幼年健兒は、もつと伶俐なのであります。フットボール競技者や、拳闘家は、自分を鍛へるのに、こんな練習をすることを、人が知つてゐます。

### 蛙跳びと、てんぐら返し

私は、大勢の子供等が、蛙跳びをしてゐるのを見たことがあります。その或者は、立派にする



これは「てんぐら返し」の終りです。



これではありません。

者もあり——或者は、跳ぶといふよりは、石炭擔ぎの背中に、コークの袋がごろ／＼してゐるやうなものもあります！最初習ふ時には、自分位の者か、又は、少し小さい者の上を越えて見るのです。横になつて、屈んで、頭をよく入れて、立つてもらふのです(兩足を少し開いて、兩手で脚を握ると、よろめくやうなことは少いのです)！今度は、その方に駈けて行つて、兩手を背中につき、跳び越えるのです。——兩脚をよく離して。全く型通りに跳び越えてごらんなさい。そして、できるだけ、軽く重みを加へるやうにします。



でんぐり返しをする時は、只ひつくりかへるので満足してはなりません。ひつくりかへつた後に、手をつかないで起きられるかどうかを見てごらんなさい。

### 本 積 み

或者は歩き、或者は前に屈みます！あなたはどちらですか。一緒にやるのを見ると、歩く方か、屈む方か、直ぐ判ります。歩く方は真直で、歩調に調子があり、眼にはさかしさうな風が見えます。屈む者は、肩を圓くし、しまりがなくやうに見えます。進む時には、少しも地面以外は見えませんから。

幼年健兒教範位の大きさの本を三冊のせなさい。そして、頭を平にして、どの位歩けるかやつてごらんなさい。屈むならば、本は直ぐ床に落ちませう。併し、肩を張つて、頤をしめて歩くなれば、——間もなく圓バン賣と競走が出来るやうになります。

多分、東洋の水汲みの繪を見たことがあります。彼等のまねをしてごらんなさい——お母さんのお居間の水差を使ふではありません。それでは、腕白者のすることになります。何か下に

落ちて、いたまない物でなさい。

### 輪廻し、一脚跳び、ボール投げ

右手ばかりでなく、左手で輪を廻し、八字形をして、廻つて、速力と技巧とを競走するのです。石けり——圓形と直線。右に廻る時は、右足で八字形を一脚跳をし、反対の時は、その反対をするのです。

テニス・ボールを投げたり、捕つたりすること。左右いつれでも、同様に投げること。そして片手で、両手でするやうに、捕ること。第一星章を得る考査は、十碼の距離にある子供に、左右更代で、ボールを投げて、六回中四回はとられるやうにするのです。又、代り番にやつて、十碼



水 汲 み

の距離から、片手でも、両手でも六回中四回はとれるやうに投げるのです。縄跳び。高跳びと幅跳び。五十碼競走。

これ等は凡て、人を立派に丈夫に生長させる助けとなるものであります。併し、他の三つのごとも、また助けとなることを忘れてはなりません。——即ち、健康によい食物を十分食べること（併し、食べ過ぎてはなりません。血液を悪くするやうになりますから、）又、内部にまゐる有害な物を排泄するために、毎日「便通」を規則正しくすること。寝てゐても、起きてゐても、室に新鮮な空気が入つて来るやうに、窓を開いて、新鮮な空気を澤山呼吸すること。

是等のことは、自分で練習しなければなりません。他人は諸君の代りにしてくれることが出来るものではありません。それですから、自分を大きく、丈夫に、健康にさせるのも、又は、自分で、貧弱な弱虫になるのも、自分次第であります。

今度は、なすべき四つのことを記憶しなさい。それは何ですか。

健康によい食物。

毎日の便通。

新鮮な空気。

體操。

### 鼻からの呼吸

諸君は、呼吸に就いて、私は、鼻から呼吸すべきことを述べたことを注意してをりませう。なぜ口から呼吸してはいけないのですか。

理由はかうです。口の奥にある喉は、大層柔かで、風も引き易いし、腫れ易いし、病氣にも罹り易いのであります。若し、口から呼吸すると、寒い空気が、直ぐそこを犯して、悪寒を興へるのであります。併し、鼻から呼吸すると、そこを通る時に温つて、結構に温い裏口を通るやうに、喉に入つて行きます。

併し、鼻から呼吸すべき他の理由もありません。

空中には、微菌と呼ばれてゐる小さな生物が、飛び廻つてゐます。肉眼では見られない程小さいのであります。大層よい顕微鏡では、それを見ることが出来ます。

ろにや／＼した小さな虫であります。大層危険であります。それが体内に入ると、何かの病氣になることは屢々であります。

口を開いて呼吸をすると、かういふものが喉に通つて行つて、胃に入ります。そこで澤山の害を起し易いのです。併し、鼻から呼吸すると、鼻腔内にある、ねばくした液につかまつて、鼻をかむと、再び出てしまふのであります。

又、口を開いてゐて、骨が折れる仕事をすれば、直ぐに喉が喝きます。併し、鼻で呼吸すると、さういふことはありません。

口は食べるために與へられ、鼻は呼吸するために與へられました。それですから、何故に、その目的通りに用ひないのでですか。

西部アメリカにゐるレッド・インディアンは、夜晝とも口を結んで、赤坊の中から、鼻で呼吸することを教へます。併し、その理由は、口を開いて眠るものがあると、鼻をかくのを防ぐためであります。敵にとりまかれてゐる地方で、鼻をかくと、何時、何處で眠つてゐるかといふことが判つて、胸に双物を刺される非常な危険があるのです。

## 爪

私は、諸君に話したやうに、日本の軍隊では、兵士は大層清潔にしてをります。食事の前には、常に手を洗つて、爪は何時でも汚くしてはならんといふ規則があります。兵士間に、多く病氣のないのは、この規則があるからだと思はれてをります。

その理由は、是等の有毒な細菌は、空中に飛んでゐて、汚い處に住み、そして、手について、爪の中にかくれ易いのであります。それ故に、常にこれを清潔にして、食物を扱ふ場合には、特に注意を要するのであります。爪は、手でも、足でも適當に、鋏できり取つて置くものであります。

兵士も他の人もさうですが、足の大指の爪が、一方にのびて指に喰ひ込んだので、跛をひいて、大層いたがつて、苦んでゐる者が、往々あります。

これは、爪が餘り長くなるまで、うつちやつて置いたので、靴に押しつけられて、指の脇に生え込んだからであります。

それですから、氣を付けて、一週間毎か、十日毎に、屢々趾の爪を切り、先は、圓くなく、まっすぐに、鋭い鋏で切るものであります。

手の指の爪は、又一週間に一度位、よいなりに切つて置くものです。それは指の形に、圓くして、隅がひつかかつたり、割れたりすることのないやうにするのであります。

爪をかむことは、大層悪いことです。

### 齒

或人が、軍隊に志望するために、役所にやつて來ました。すると、將校は、體格や、身長や、視力を検査して、それから齒を見ました。——それから、その將校のいふのに「君は立派な大きい男だが、私は兵隊にとることが出來ません。君の齒が、悪いからです。」

その男が驚いて出て行きました。そして、兵隊は、今でも、敵を殺すばかりでなく、人を食ふやうな兵隊をとりたいたのだと、友人に話しました。ほんとうのことは、兵士が、堅いパンや、硬い肉を食ふことが出來なければ、役に立たないからであります。

人が、食物をよく咀嚼することが出來なければ、胃に入つても、血液を作る善い物が出て來ません。私は、諸君に話したやうに、それが、健康に大層必要なのであります。

それですから、何事をするにしても、齒をしつかり、丈夫にするやうになさい。有毒菌は、身體の如何なる部分よりも、齒を一層早く犯します。細菌が齒の間に入つて、穴を作ります。そして、齒痛といつてゐる、怖ろしい痛みを起します。そして、齒が抜けたり、又は抜いたりしなければなりません。その結果として、食物は、その後、よく咀嚼されません。

併し、適當に、齒を清潔にして、ブラシを使い、口から細菌を洗ひ出す面倒を見れば、自分で之を防ぐことが出來ます。

第一に、齒ブラシを得ることあります。これは、何處の藥屋でも、少しの金で買はれます。若し、買ふことが出來なかつたら、どうにかして、自分で作ることが出來ます。

アフリカの荒野には、藥屋がありません。それでも、その土人は、立派な齒をしてゐて、食後には、小さい木で作つた小さな楊枝で、絶えずブラシをかけてをります。

彼等は、短い木を求めて、金槌で打つて、その端を、繪筆のやうにします。幼年健兒なら、自分で、二三分で作ることが出來ます。朝起きる時と、夜寝る時と、又出來るなら、中食後でも、これを用ひることを忘れてはなりません。

楊枝で黴菌を攻撃して、齒の間や、後にかくれてゐる處から追ひ出して、水を口に含んで、含嗽をして、齒に穴をあけたり、毀す機会をなくするのです。

## 足

足が疲れると、遠く歩くことが出来ません。汗が出たり、濡れた靴下をはいてゐると、皮が柔くなつて、擦れて、直ぐまめが出来るやうになります。それは、度々靴をぬいで、足や靴下をよく乾かして、皮膚を濕つぼくしないやうにして防ぐことが出来ます。

靴下をはく前に、足に石鹼をぬつたり、油をぬるのも磨擦を防ぐには、悪いことではありません。まめ。足にまめが出来たら、少し注意すると、容易に治すことが出来ます。併し、注意しないと、皮がとれて、かなり痛い思をします。

その手當は、かうすればよいのです。針を出して、二三秒間、焚火か、マッチの焔にあて、それについてゐさうな病菌を殺すのです。それから、肉に近く、まめに刺すのです。少しも痛く感じません。それから、針で作つた小さい穴からまめの水を押し出すのです。



細紐でこの様に足に靴を結び付ける  
とまめが出来るとは稀であります。

靴。まめは、靴が大き過ぎて、足が滑るので出来ることゝあります。これを直す二つの方法があります。

一の方法は、厚い靴下をはくか、又はもう一足靴下をはくことです。

他の方法は、上圖に示すやうに、靴の底から、細紐を通して、甲の上に廻し、靴に巻いて、足にしつかりつけて、止めることです。

併し、きつい靴を求めてはいけません。澤山歩くと、足は大低張れて、大きくなつて、遠く歩くことが出来ません。それですから、餘地を残して置くのが、賢いことです。

最等の小さなことを知つて置いて、自分でこれを實行すると、野營をして、ほんとうに、楽しくするか、しないか、非常な相違が起ります。

## 第十一食

時計の見方と幼年健児奉仕(寄稿)——第一章

遠い、遠い昔、人といふ人は、食物を捕つて、殺して食事とし、こんなことをして、休んで時間を過してゐた時代には、誰も、夜晝とも、正確な時間を知ることがを要しませんでした。今では、澤山の事をする人々は「一分一秒」まで時を知らなければなりません。

學校で、自分の身長や、體重を知つたならば、六十秒は一分で、六十分は一時間で、二十四時間、一晝夜であることを存じてせう。

ここに、時計の面があります。それに、針が二本と(一本は長く、一本は短い)十二個の数字と、六十個の小さな線があるのに、氣が付きませう。

短い針は、時計の面を徐々に一周し、一つの数字をさしたり、又近くにある時は、その数字は、夜晝とも、その時間でありませう。(圖をもう一度見てごらん下さい。短い針は、12近くをさしてを



ります。)

長い針は、もつと早く動きます。なぜなれば、それは、分を示し、この六十個の小さい線を、通過してしまはなければなりませんから。——十二から十二まで)

その間に、短い針は、二個の数字の間をいきます。

十二個の数字は、實は、只、時間を印すばかりのことです。

我々は時間を知りたいと思ふ毎に、或る時間まで何分か、又何分過ぎたかと、その小さい線を數へることでは、非常に煩はしいことです。各数字毎に、五分を印すやうにつけてあります。——2の数字は、その時間から五分の二倍、即ち十分過ぎ、8の数字は、次の時間まで、五分の四倍、即ち二十分前であります。3は六十分の四分の一(五分の三倍)過ぎ、6は半分過ぎ、9は一時間の四分の一であります。

短い針が3と4の間にあり、長い針が5をさしてゐる時は、何時だかといふことが出来ますか。

今度は、自分で動く針がついてゐる時計の模型を作つてごらん下さい。直ぐに専門家になりま

せう。そして、よく見えないお婆さんが、何時ですかと問うたならば、お婆さんについてあげる  
ことが出来て、「知りません」といはなくてもよいでせう。  
誰かに時間をいつてあげても奉仕であります。

### 奉 仕

諸君の隊に、青年健兒がいくらかをりませう。(多分その中には、幼年健兒の列を正してやる者  
があらませう!) 處で、その標語は「奉仕」であります。彼等は、善行をしたり、他人のために、  
ほんとうに、こまつてゐる仕事をしてあげる何かの方法を求めてをります。併し、青年健兒はか  
りが、奉仕する者だといふものではありません。幼年健兒も、この方面に全力を盡さなければなり  
ません。自分の隊に奉仕する、最も立派なことは、教練毎に出席して、意地悪く、ぼんやりして  
をらないで、清潔にして、熱心、にやつて來ることあります。

幼年健兒の奉仕は、半ばな、よいかげんの事ではなく、ほんとうに全力を盡すのでなければなり  
ません。さつさと最も困難な仕事に取りかゝつて、次に擧げた事を知ると——既に前に述べまし

た。——隊長は、帽子に、第一星章を付けてあげてよいことになります。

### 第一星章

第一星章を授ける前に、見習は、次の事をします。

(a) 英國旗の構成を知り、その正しい掲揚法。

(b) 次の結索法とその用法を知ること。

本結、一重接、巻結、紡結。

(c) でんぐり返し、同じ大きさの子供の上の蛙跳び、輪廻し、八字形の一脚踏び。十碼の  
距離の子供に、六回中四回とれるやうに、最初は右手、次には左手で、ボールを投げ  
ること。十碼の距離から投げたボールを、六回中四回とること(片手又は両手を用ゐて)

(d) 兩足を揃へて三十回縄跳びすること。始終膝を少しく曲げ、爪先で後方に跳び、自分  
で綱を廻すこと。五時に八時の本(幼年健兒教範の大きさ)を三冊頭上に平にのせて、  
十碼間正しく歩くこと。

(e) 手と足を清潔にし、爪を奇麗に切り、齒を清掃する方法と理由とを知り、又鼻から呼吸する理由。

(f) 時計で時間をいふこと。

(g) 幼年健兒として、少くとも、三ヶ月間の奉仕をすること。

第一星章は、帽子の前、健兒章の右側に付けるのであります。

## 第十二食

信號法。——アルファベット。

今度は、大問題になつて來ます。——我々は、信號法を習ふのです。しかも、我國の凡ての幼年健兒は、非常によい成績を擧げてゐるものであります。健兒は、兵士よりも二倍早く、信號を覺えるやうであります。ガール・ガイドは、少年健兒よりも早く覺え、幼年健兒は、ガイドや、スカウトや、兵士よりも早く覺えます。

記憶すべき大事なことは、各文字を信號することを知るばかりでなく、これを受ける者が讀めるやうに、明瞭に正確に信號することにあります。そこで、立ち方や兩腕を正しい位置に置くことに就いては、特に氣を付けなければなりません。信號法の事に就いては、本書の第二部、第二章に詳説してありますから、ここでは、私はこれ以上は述べません。



### 第十三食

家事——焚火の仕方(屋の外内にて)——衣服の整理——靴の磨き方——お使の仕方——道路の清掃——練習。

諸君は、他の人が起きる前に、内の手傳をした善い小さな者のブラウニーの話を記憶してゐます。又大騒をして駆け廻つて何もせず、物をだらしなく、汚くして、うつちやつて置いた、小さないたづら者の腕白者の事も覚えてゐます。

幼年健兒は腕白者にならうとは思ひません。彼等の仕事は、ブラウニーのやうになつて、内の用をしたり、他人の手傳をしたりすることを好みます。

よいブラウニーになる爲には、よい幼年健兒のやうに、火の焚き方を知らなければなりません。

### 焚火の仕方

「見習」即ち始めての者のよくやる誤は、火を大きく焚かうとすることであり、山奥の人は決してそんなことはしないことが判りませう。——その人が火を焚くには、薪を出来るだけ少なく用ゐます。



火の焚き方

始めには、薪を集めることとあります。青い切り立ての薪はよくありませんし、長く地面にころがつてゐた腐つた木もよくありません。許可を得て、枯れ枝をとりなさい。

火を焚くには、地面が濕つてゐるならば、殊に、少しの木を、地面に平に置くのであります。この下敷の上に、「火口」——即ち、紙、鉤屑、木の皮の薄皮、木片、其他マッチから、直ぐ火の付き易い物を置きなさい。

この上に、細枝や、木片や、枯木の割つたのを、互違に「火口」に、ピラミッド型に積むのです。是等は焚材と呼ばれてをります。火を焚くには、それに、だん／＼太いのを加へるの

です。

焚材によいのは、圖に示す如く、木を細く割るか、削るかして、容易に出来ます。これは、木片と呼ばれてゐます。

立てる時には、削り口を地面の方に下にすると、早く火が付いて、焰が上ります。

「火口」の下にマッチを入れて、これに、火を付けなさい。

木に火がよく付いたならば、だんく太い木を加へて、遂には、丸太を車の輻のやうに、星がたに置くのです。かういふ風にして焚いた火は、決して消えませんが、丸太が燃えきるに従つて、火の中心の方に、丸太を押しつゝると、何時でも、赤い火を得られます。これは、よい料理火になり、煙や、焰は、遠くから偵察してゐる敵にも、餘り見えないものであります。

夜分に、發火信號をするのに火を燃すのには、乾いたハリエニシダ、藁、枯枝などを澤山用ゐるのであります。

發煙信號をするためには、乾いた木や枝を澤山用ゐて焰をたて、葉や草をか



けて、煙をたてるのであります。

内の用をするためには、幼年健兒は、火床に火を焚くことが出来なければなりません。これをするには、勿論、最初は、火床を掃除し、燃えた火の灰をとらなければなりません。

の 人が多く、燃殻をなげて、たきものを澤山なくしてゐます。燃殻は拾

太 ひとつて、粉になつた灰ばかりをすてるのです。

丸 石炭に混つた燃殻は、火に餘分の熱を與へて、經費が助かります。

私が燃殻から灰をとるに用ゐた一寸した道具があります。

篩がなかつたら、古い針金の網を用ゐなさい。それに灰を一杯しゃく

つて、塵取りに灰を卸し、そして、火にくべるために、燃殻をとつて置くのであります。

火を焚くには、よく氣を付けて、うまくやるのであります。火が焚き付かなかつたならば、また面倒して、やり直さなければなりません。

初めての者は、大抵紙を澤山使つて、木は少く、石炭を初めから多過ぎる程くべます。焚き初



める時は、特に石炭は少しだけくべるのであります。石炭の重さで、押し付けて、火が消えるからであります。

火が燃えるのには、空気がいります。それですから、紙をひねつて、上には木を幾重にも渡し、石炭を軽くかけて、空気の入る餘地が澤山あるやうにして置くのであります。

## 料理

野營や、狩りに行く人は、勿論、誰れでも、自分の食物の料理が出来なければなりません。さうでなければ、大層心細いのであります。

幼年健兒もまた、誰れでも、料理が出来なければなりません。

手初めに、最もよいことは、臺所に行つて、お母さんの手傳をし、馬鈴薯の皮のむき方や、肉の料理のしやうや、捏粉の仕方や、フライの仕方、焼肉の仕方、蒸し方、シチューの仕方などを見ることでもあります。

それから、それがよく解つたら、屋外で、自分で練習をして、火を焚いたり、「飯盒」や、野營料

理道具を用ひてやつて見るのです。

## 料理火

屋外で料理火を作るのには、赤い炭火を得ることです。それには、太い木で火を焚くのです。或は、半分燃えた木を碎いて、炭火を作るのです。

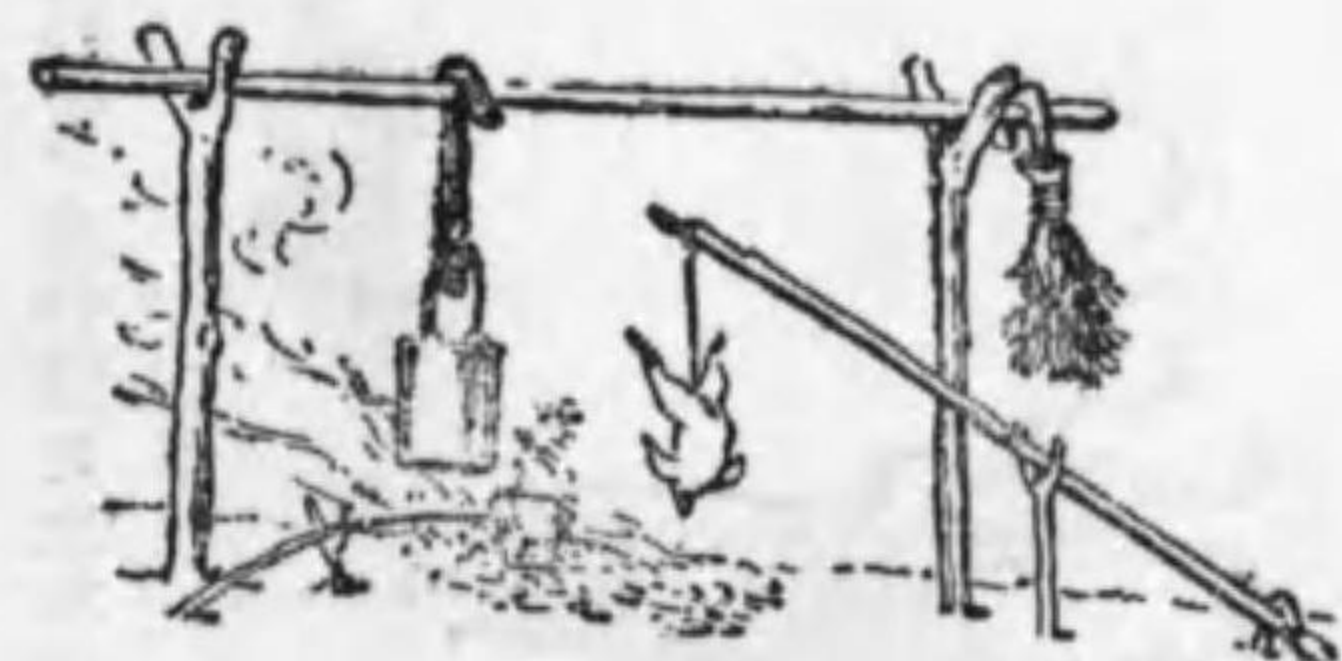
大層よく乾いた牛の糞も、上等な焚き物になり、古靴も乾くと役に立ちます。

煉瓦や、石や、丸太を二つ並べて、間をみぞにして、火を焚くのは、大抵は最もよいのであります。さうすると、よく燃えるし、圍がないよりは、熱が強いのです。周圍が丈夫に出来てゐると、鍋や釜をのせられます。



野營かまど

## 鍋 釜



鍋釜と吊り物と野營箒

それから、火に鍋をかけたたり、食物を焼いたりするために、鍋釜や、吊り物を自分で作らなければなりません。老練の野營者は、帯のあたりに、釜を身につけて持つてゐます。  
このスケッチは、これをする方法の一例を示したのであります。

### バケツの焚火

火を焚くのによい他の方法は、古い鐵のバケツのあたりに、穴を澤山あけて、コンロとして用ゐることです。古バケツに穴をあけるのには、土を一杯つめて重くし、それから、鶴嘴で打つて穴をあけるのであります。道路を修繕する時に、番人が、之を用ゐてゐるのを往々見ることがあります。

我々は、南アメリカで、草原地を旅行する時に、これを用ゐつけてをりました。其邊では、何日もく木も藪もない平原を越えて、火を焚いて行つたのです。それで、火を焚きながら、車にませう。



バケツの焚火

### 野火

吊して、時々枯草の根や、牛の糞や、古靴や、古皮など見當り次第くべたのです。  
同じ方法で、雨天で、木や地面が濡れてゐて、新しく火を焚く時は、大變調法でありました。我々は始終火を携帯したのです。  
バケツの焚火の他の利益は、料理をした時に、残物が残りませんし、又野營地の附近の草に、火が付く危険も少ないのです。夏時分には、これは、非常に危険であります。一度草に火が付くと、決して止めどがないからです。

老練なスカウトは、焚火をしようとする處の草を刈り取つたり、少しづつ焼いたりするのであります。さうすると、火が付いても、草原に擴がることはありません。

それから、料理が終つた時には、老練な野營者は、火を消して、よく踏み付けることを、大層